

**令和3年度大学教育再生戦略推進費
「大学の世界展開力強化事業」計画調書
～ アジア高等教育共同体(仮称)形成促進 ～**

[基本情報:タイプ] (B①:CAプラス)

1. 大学名 (○が代表申請大学)	東北大学				
2. 機関番号	代表申請大学	11301			
3. 主たる交流先の相手国	中国・韓国・タイ・インドネシア				
4. 事業者 (大学の設置者)	ふりがな	おおの ひでお	(氏名) 大野 英男 (所属・職名) 総長		
5. 申請者 (大学の学長)	ふりがな	おおの ひでお	(氏名) 大野 英男		
6. 事業責任者	ふりがな	たかはし のぶひろ	(氏名) 高橋 信博 (所属・職名) 歯学研究科・研究科長		
7. 事業名	【和文】				
	アジア型デンティストリーコンソーシアムによるマルチモーダルなグローバルリーダー育成				
	【英文】				
Multimodal Global Leaders Development through Asian-Model Dentistry Consortium					
8. 取組学部・研究科等名 (必要に応じ[]書きで課程区分を記入。複数の部局で合わせて取組を形成する場合は、全ての部局名を記入。大学全体の場合は全学と記入の上[]書きで全ての部局名を記入。)	学問分野	○ 人 社 系 ○ 理 工 系 ○ 農 学 系 ● 医 歯 薬 系 ○ 看護・医療系 ○ 全 学 ○ その他			
	実施対象 (学部・大学院)	○ 学部 ○ 大学院 ● 学部及び大学院			
	歯学研究科、医工学研究科、工学研究科、文学研究科、環境科学研究科、金属材料研究所、加齢医学研究所、大学病院(臨床研究センター)				

9. 海外相手大学				
	国名	大学名(日本語)	大学名(英語)	部局名
1	中華人民共和国	北京大学	Peking University	School of Stomatology
2	中華人民共和国	四川大学	Sichuan Univeristy	West China School of Stomatology
3	大韓民国	ソウル大学校	Seoul National University	School of Dentistry
4	大韓民国	延世大学校	Yonsei University	College of Dentistry
5	タイ王国	チュラロンコーン大学	Chulalongkorn University	Faculty of Dentistry
6	インドネシア共和国	インドネシア大学	University of Indonesia	Faculty of Dentistry
7				
8				
9				
10				

10. 連携して事業を行う機関(国内連携大学等)					
	大学等名	取組学部・研究科等名		大学等名	取組学部・研究科等名
1			4		
2			5		
3			6		

(大学名:東北大学) (タイプ (B①:CAプラス))

11. 「学校教育法施行規則」第172条の2第1項において「公表するものとする」とされた教育研究活動等の状況について、公表しているHPのURL

<http://www.tohoku.ac.jp/japanese/disclosure/disclosure/09/education0902/>

12. 本事業経費 (単位: 千円) ※千円未満は切り捨

年度		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合 計
事業規模 (総事業費)		24,930	41,800	44,900	38,100	36,970	186,700
内 訳	補助金申請額	15,800	14,200	12,700	11,400	10,200	64,300
	大学負担額	9,130	27,600	32,200	26,700	26,770	122,400

13. 本事業事務総括者部課の連絡先

部課名			所在地		
責任者	ふりがな (氏名)		(所属・職名)		
担当者	ふりがな (氏名)		(所属・職名)		
	電話番号			緊急連絡先	
	e-mail(主)			e-mail(副)	

(大学名: 東北大学) (タイプ (B①: CAプラス))

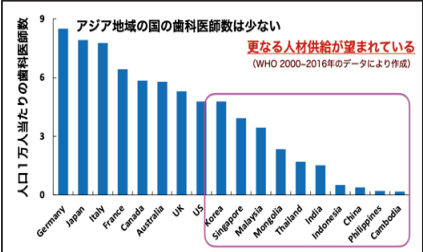
質の保証を伴った交流プログラムの目的と内容【1ページ以内】

① 交流プログラムの目的・概要等

【交流プログラムの目的及び概要等】

(概要) 本事業では、「食べる」「話す」「味わう」など人々の生活・文化・健康に密接に関わる「口」の機能を保障する歯学分野において、日中韓及びASEAN(タイ・インドネシア)の大学が連携して、文理異分野連携型・産官学連携型の歯学教育を通じた多様な価値観を受容し相互理解を深める学生交流を提供する。これらを通じて、アジアの環境・ニーズに合ったアジアスタンダードに基づく歯学教育研究・歯科医療(アジア型デンティストリー)の確立・普及と、これに貢献し得る多様な視点からアジアの歯科医療・口腔保健ならびにその技術革新を先導するリーダー人材(「マルチモーダルなグローバルリーダー」)の養成を目指すものである。

(背景) 社会課題が複雑化・高度化する現代のグローバル社会では、融合知・国際知に立脚した幅広い視点から最適解を抽出する人材の育成が求められている。特に、多方面から習得した知識・技能を、教育、研究、医療、産業、行政といった異なる立場にあってそれぞれの連携を意識しつつ、求めに応じて適切に選択・実践できる人材、すなわち「マルチモーダルなグローバルリーダー」は、多様なステークホルダーをうまく連携させて解決に導くリーダー人材であり、社会課題の解決のために必要不可欠である。



また、アジア地域では急速な経済発展、社会基盤の向上に伴い、歯科医療需要の著しい拡大と、健康に寄与する口腔保健の向上が社会的な課題となっている。しかしながら、多くのアジア諸国では、歯学教育研究、歯科医療・口腔保健ならびに歯科技術・機器開発レベルは未だ発展途上であるため、歯学教育研究、歯科医療、口腔保健への更なる人材供給が求められている(図)。また、口腔・歯の形態、疾病構造、文化・健康観などが類似しているアジアでは、歯学・歯科医療・口腔保健に対するニーズも同質であるため、現在主流となっている欧米型とは異なるアジアスタンダードに基づく歯学教育研究・歯科医療(「アジア型デンティストリー」)の確立・普及が望まれている。

(取組内容・将来構想) 上記の背景を踏まえ、本事業では本学のリーダーシップのもと、アジア型デンティストリーの確立・普及を目指し、既存の日中韓歯学ダブル・ディグリー(DD)プログラムの東南アジア地域への展開を進める。このために、日中韓+ASEAN(タイ・インドネシア)の歯学基幹校によるアジア型デンティストリーコンソーシアムを形成し、次の取組みを通じて、「マルチモーダルなグローバルリーダー」を養成する。

(1) 学部入学時点から双方向短期交流プログラムおよび歯科企業・保健医療行政でのインターンシッププログラムを実施。(2) 東北大学と日中韓間で設置済の双方向型歯学博士課程DDプログラムのASEANへの展開によりASEAN歯学基幹校間の単位相互認定を実現し、参加学生が全ての連携国で体験学習できる国際連携教育プログラムを構築。(3) 日中韓+ASEANの歯学基幹校間の国際共同シンポジウム定期開催、研究者・教員交流を通じ、国際共同研究を実施・強化。(4) 事業終了時に本プログラムの参加者・修了者からなるAsian Dental Leader's Leagueを構築し、アジアに根差した歯学教育研究・歯科医療(アジア型デンティストリー)の確立・普及を促進。

さらに、本事業を通じて、国際共同教育をアジア全域への拡大・展開を可能とするアジア歯学ジョイントディグリー(ID)プログラムの設置を視野に入れたマルチな連携関係を構築する。これにより、将来的にアジア・太平洋地域を中心とした、欧米と比肩・対抗する歯学・歯科医療・技術・歯科産業・口腔保健の第三極が形成され、「口」の健康を切り口としたライフイノベーションが実現可能となる。

(交流プログラムの質保証) 応用科学としての歯学は、人々の生活様式や健康感を理解し、高度な技術を持つて的確にその機能を維持・補完することが求められるため、サイエンスの一分野としての歯学の発展には多分野間の横断的連携・産官学連携が必須である。さらに、「アジア型デンティストリー」を実現するためには、アジア地域における相互理解を深める必要がある。これらの要求を満たし、質の高い歯学教育を推進するため、本学では、総合研究大学の強みを活かし、歯学のみならず、工学、文学、環境科学、医工学、金属材料科学、加齢医学、大学病院など多部署からの協力を得て講座を開設する。

また、本事業プログラムでは、研究指導リエゾン会議のもと、連携校による共同指導体制を取り、修学状況を共有し、段階的形成的評価に基づく学位の質を保証するQualifying Examination(QE)を導入し、入学時面接(QE0)、研究テーマ選定会議(QE1)、研究進捗報告会(QE2)、学位予備審査(QE3)、学位本審査(QE4)を実施するとともに、学生支援・メンタリング・コーチングを図る。さらに、UCTSによる単位相互認定および成績共通管理を強化し、学習成果および学習内容のデジタル化により教育の質保証に寄与する。

【養成する人材像】

本事業で養成する人材は、融合知・国際知に立脚し、研究、教育、医療、産業、並びに行政の各分野で活躍できるリーダーである。具体的には、(1) 教育研究・医療機関において多様な視点から世界の歯科医療の技術革新を創造する歯学研究者・教育者・高度専門職業人、(2) 行政機関において、問題抽出・制度設計を通じ、世界の口腔保健の抱える課題を解決できる人材(3) 歯科医療技術・器材の認証・産業機関において、法規整備・技術革新を先導し、日本の歯科産業の国際展開に積極的に貢献できる人材の養成を目標とする。

【本事業で計画している交流学生数】各年度の派遣及び受入合計人数(交流期間、単位の取得の有無は問わない)

(単位:人)

2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
10	10	20	20	20	20	20	20	20	20

(大学名: 東北大学) (タイプB①: CAプラス)

② 事業の概念図 【1ページ以内】



③ 国内大学等の連携図 【1ページ以内】

該当なし

④ 交流プログラムの内容 【4ページ以内】

【実績・準備状況】

（歯学教育研究のグローバル化の必要性と「アジア型デンティストリー」構想）アジアでは急速な経済発展、社会基盤の向上に伴い、近年、歯科医療需要および歯科材料・器械市場が著しく拡大している。しかしながら歯学教育研究、歯科医療・口腔保健ならびに歯科技術・機器開発レベルは多くの国で未だ発展途上であり、更なる人材供給・技術提供が望まれている。加えて、教育研究基盤の向上のための人材も必要としており、多くの学生が、また教員が研究力・臨床力の獲得に繋がる高度な歯学教育を求めている。そのため歯学教育機関の多くが欧米、日本との教育研究連携を望んでいる。

我が国の歯学教育研究、歯科医療ならびに歯科医療技術・機器開発レベルは、欧米主要諸国とともに世界トップに位置してきた。しかし、近年、歯学教育の共通化・規格化は東南アジア地域独自の共通基準の策定を進めているASEAN諸国に遅れを取っているほか、歯科医療技術・機器開発研究の実用化におけるスピード・制度設計は中韓に遅れを取っているなど、世界を意識した歯学教育研究及び制度の向上が急務となっている。

歯学は口腔の健康から全身の健康を守る学問としての固有のアイデンティティを持つ一方、研究・開発・原因究明などサイエンスとしての普遍性も持ち合わせている。このため、研究、教育、医療、産業、並びに行政の各分野で活躍する人材を育成する学問として、分野横断

的連携のみならず、国際連携によりグローバルに活躍できる歯科医師・歯学研究者の養成および歯科医療技術・機器開発を進める必要がある。

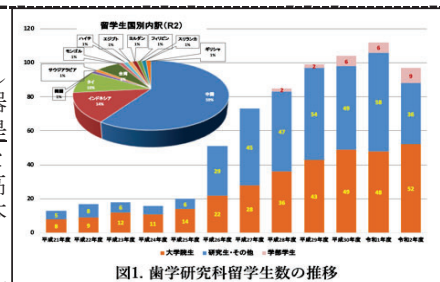
また、我が国の歯学教育研究、歯科医療は、欧米とは異なる倫理観・健康観、例えば歯を体の一部として捉え、抜歯より歯を残して生かす治療を優先するなど、欧米とは大きく異なっており、日本古来の道徳観、死生観を反映している。さらに、歯や口、顔の形、機能、さらには疾病構造も異なるため、欧米標準の歯科医療術式、器材をそのまま適応しているわけではなく、我が国独自の理論・技術体系、およびそれに対応した教育体系を用いることが多い。これらは他のアジア諸国に目を転じても同様であるが、実際には、我が国においても、他のアジア諸国においても、歯科医療理論・技術は未だに欧米型を標準とすることが多い。特に東南アジアでは歯学教科書、歯科医療機器の殆どを欧米からの輸入に頼っているのが現状である。

人々の生活・文化・健康に密接に関わる分野として、歯学分野の発展には、立脚する国や地域の環境・ニーズに即した歯学教育研究・歯科治療を提供することが重要である。このため、アジア地域における体型・体質や文化・健康観の同質性を踏まえた「アジア型デンティストリー」の確立・普及が必要とされている。

（東北大学におけるこれまでの取組みと本事業における展開）東北大学は35の国・地域の249個の研究・教育機関と大学間交流協定を締結しており、先進諸国のみならずアジアとも活発な交流を行っており、2020年度受入留学生の87.1%がアジア地域からで、中国、韓国、タイ、インドネシアからの留学生は上位を占めている。さらに、東北大学は教育、研究、事業の促進を目的に環太平洋地域にある先進的研究大学からなる連合・環太平洋大学協会（APRU）および東アジア研究型大学協会（AEARU）に加入しており、本事業での連携大学と深い交流を進めてきている。東北大学大学院歯学研究科は、国際的な教育研究・人材育成を意識し、アジアを中心とした世界の歯学基幹校35校と学術交流・学生交流協定を締結し、中国、韓国、インドネシア、タイ、シンガポール、モンゴル、インド、香港、台湾、イギリス、カナダ、アメリカ、フィンランド、スウェーデンなどの歯学基幹校と学生交流、国際共同教育、共同研究、国際産学官連携研究開発、研究員の受入および派遣、国際シンポジウムを共催など幅広い交流を行ってきた。それに伴い、留学生受け入れ人数の増加（図1）、国際誌への論文発表数の増加（図2）など、研究、教育、人材育成において、高い実績を誇る。

歯学教育・研究は、超高齢社会、新たな科学の勃興、学問領域のボーダーレス化を受け、トランスレーショナルリサーチ、先端マテリアル研究、ナノ加工学、再生医学、機能イメージング、IT技術、人工知能（AI）等の先端分野を取り込んだ、異分野融合教育・研究が必須となる。これに加え、口腔は口腔組織、寄生微生物および生体材料の三つのシステムから成り立っており、本学では、これらの三つのシステムが接する界面（インターフェイス）の調和に着目した次代の歯学概念「インターフェイス口腔健康科学（IOHS）」を2002年に提唱し、2009年度にはIOHS英語コースを設置して大学院博士課程の英語化を実現した。さらに、「口腔のインターフェイス」から「学問のインターフェイス」、「社会のインターフェイス」への概念を広げ、総合大学の強みを生かし、工学研究科、金属材料研究所、医工学研究科との連携による異分野融合教育・研究、歯科産業・口腔保健行政との連携による産学官連携教育・研究に基づいた高度専門人材育成を進めてきた。この一環として、歯学教育は歯科医師養成を目的とした学部教育（6年間）および研究者・教育者養成を目的とした博士課程（4年間）からなるのが原則のところ、東北大学では理工系および文系出身学生を対象とした日本唯一の歯学修士課程（2年間）を設置した。

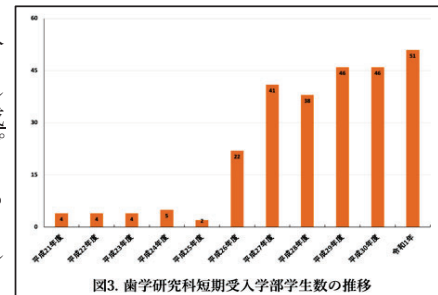
2013年度には、日中韓の国際的連携・協力による東アジアにおけるグローバルリーダー育成を目的に、世界初の歯学系ダブルディグリープログラム「東アジア歯学ダブルディグリープログラム」（DDプログラム）を歯学研究科内に設置し、2019年度までに「我が国の大学と外国の大学間におけるジョイント・ディグリー及びダブル・ディグリー等国際共同学位プログラム構築に関するガイドライン」に厳密に従い、中国の四川大学、北京大学、天津医科大学、武漢大学、韓国の全南大学、ソウル大学、延世大学と次々とDDプログラムに関する協定を締結し、学生の受け入れを始めた。2020年度にはDDプログラムのASEAN地域への拡充を目指し、「アジア歯学ダブルディグリープログラム」にアップグレードし、タイのチュラロンコーン大学とDDプログラムに関する協定を締結した。上記のDDプログラムの設置・運営により、日中韓泰間のUMAP単位互換方式を基準とした単位互換制度が整備され、学生1名につき、本学教員3～4名と連携校教員1～2名からなる共同指導体制を取っており、研究指導リエゾン会議の定期的開催により、修学状況の共有化を図り、効果的な高品質共同教育を実現している。さらに、成績・単位取得状況を学内教務システムで指導教員に公開するとともに、2014年に歯学研究科に導入済の多言語（日中韓英）学修ポートフォリオ・システムを活用し、複数の指導教員による様々な観点からの学生への助言体制、各自の到達度に応じ、学生自ら課題を見つけ、ステップアップできる自己研鑽体制を構築し、東アジア



における国際共同教育質の保証を伴った大学間交流枠組の形成を実現した。さらに、歯学研究科の「マルチモーダル歯学イノベーションプログラム」が文部科学省特別経費に採択、2013年度および2019年度には文部科学省国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムに歯学研究科として2度採択され、ダブルディグリープログラムの推進、東南アジア・南アジア地域からの留学生の受け入れが強化され、アジア全域における本学および日本の歯学教育研究の国際的プレゼンスの向上に大きく貢献した。2014年度には大学院修士課程の英語化により、英語のみでの学位取得を実現し、アジア、アフリカ、環太平洋地域からの留学生の受け入れが活発になり、本学および日本の歯学教育研究の国際的プレゼンスの向上とアジア太平洋地区における研究拠点化を促進するにあたり、大きなアドバンテージとなった。

東北大学歯学研究科では「アジア歯学ダブルディグリープログラム」の設置・実施により、東アジア、とりわけ中国および韓国の大学間において、大学院における単位互換、相互認定が可能になり、博士課程、修士課程の全ての大学院課程において、全英語授業による単位取得が可能になった。これにより、本事業の取組の中心である東アジアにおける国際共同教育の大学間交流枠組のASEAN地域への更なる拡充を通じた、アジア全域への拡大が可能となった。本事業では、これまで進めてきた中国・韓国との大学間連携を東南アジア地域に拡大し、アジア全域における面的な関係構築を進めることとしている。

また、東北大学は国境を超えた「門戸開放」を通じ、世界の多様な人材・資源・ネットワークを惹きつけるハブとなることを目指しており、大変革時代の社会を世界的視野で力強く先導するリーダー育成に注力してきた。歯学部では、学部段階からのグローバルリーダーの一貫的養成に注力しており、2014年から海外協定校学部学生を対象としたサマープログラム（さくらサイエンスプラン、JASSO海外留学支援制度（受入）等）を継続して実施し、毎年数多くの短期学部留学生受入の実績を誇っており、海外連携校からの学部学生受入は飛躍的に増加した（図3）。さらに歯学研究科では上記の短期交流学部学生から学位取得を目的とした大学院へ進学する学生の発掘を強化している。



2016年度には学部教育における短期派遣・受入プログラムの単位化を実現し、歯学部カリキュラムに留学科目として「歯学海外研修」（2単位）を設置し、学部学生の留学に対する意欲向上につながった。

本事業では、歯学研究科が今まで取り組んできた理系部局間の異分野連携を文学研究科、環境科学研究科を含む全学に広げ、宗教学、心理学、倫理学、災害環境歯学など文化・社会に代表される人文社会学における新たな開講を通じ、新時代の文理異分野連携型・産官学連携型の歯学教育を推進する。

本事業においても、学部段階からのグローバルリーダーの一貫的養成という基本理念のもと、学部短期交流プログラムからなるグローバルモビリティ・プロモーションを通じ、日中韓泰尼歯学DDプログラムからなるグローバルリーダー・インキュベーションへの安定的人材供給を実現し、育成したグローバルリーダーから形成されるネットワークにおける国際共同研究・研究者交流を通じグローバルプレゼンス・イニシアティブの発揮を計画しており、短期交流から学位取得を見据えた長期交流、修了者の継続交流プログラムまで多様性を持つ、柔軟かつ発展的な交流プログラム構成となっており、大学間交流の発展に寄与するものである（概念図参照）。

（同窓生の組織化）上記の取組と並行して、国際的な同窓会組織による活動も展開している。2017年、在学生からなる東北大学国際歯学生協会（TUIDSO: Tohoku University International Dental Students' Organization）を設立し、在学生、修了生のフォローアップとともにアジア型歯学・歯科医療のアジアへの展開に取り組んでいる。2020年からはTohoku University Dental Alumni Association (TUDA)の設立について検討を始め、2021年1月にはTohoku University Dental Alumni Association Indonesia (TUDAI)が設立され、Tohoku University Dental Alumni Association Thailand (TUDAT)およびTohoku University Dental Alumni Association China (TUDAC)も2021年度中の設立を予定している。TUIDSOとTUDAとの連携により、修了生のフォローアップ、優秀留学生のリクルート、歯学教育・研究のグローバルネットワークの構築に強力なサポートを行うことが可能となり、本事業で各国間における連携強化に資するとともに、将来の日・アジア関係を見据えた、各国間の架け橋となるリーダー的人材の育成が実現できる。

（東北大学の国際イニシアティブとコロナ禍における取組）東北大学歯学研究科では、アジア・太平洋地域の基幹大学のキーとなる研究者とともに異分野連携インターフェイス口腔健康科学サマーセミナーを毎年開催（14回目；2019年10月）、2020年度には、新型コロナウイルス感染症流行による対面会議が難しい中、ネット会議システムを活用したオンライン学術国際連携シンポジウムを4回開催し、双方の大学院教育・研究の成果発表の場、連携教育体制の自己評価・改善の場としてきた。2018年には本研究科が主たる設立メンバーとなり設立した、アジア太平洋歯学教育協会（Association for Dental Education Asia Pacific: ADEAP）は、WHOの公式パートナーとして認定され、オセアニアおよび東南アジア歯学教育協会（SEAAD）との連携を強化しており、アジア型デンティストリーの確立と歯学研究・教育の第三軸の形成とその世界展開のための環境が整いつつある。さらに、2020年には、ADEAPに本学の教員が委員長を勤める歯学教育ガイドライン策定委員会を設置し、東北大学によるイニシアティブのもと、コロナ禍における歯学教育ガイドラインを策定・発表し、世界から高い評価を受けた。2021年からは本委員会が主体となり、アジア・太平洋地域における歯学教育スタンダードに関する議論を始めた。以上の取り組みにより得られたノウハウおよびADEAPで検討を進めているアジア・太平洋地域における歯学教育スタンダードを本事業に活用することにより、本事業のさらなる円滑な運営が可能となる。

東北大学大学院歯学研究科と連携校間の学生選抜はテレビ会議システムを導入している。また、2020年度には新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、対面交流が難しいなか、海外連携校間で初のオンライン短期受入プログラムを実施し、バーチャル・リアルの組み合わせによるハイブリッド型学生交流プログラムの実施が可能となった。本学歯学研究科に2011年から地域社会および国際社会と連携して、先進的な教育・研究・臨床・社会貢献を実現するための歯学研究科附属教育研究機関として歯学イノベーションリエゾンセンター国際連携推進部門を設置済みであり、英語、中国語、韓国語、タイ語が堪能な教員を配置、英語堪能な事務職員の配置を行い、プログラムの設計、運営、海外連携校との調整、交渉などの業務を担当するとともに、留学生に対しては出願時から修了後に至るまで学業、生活、就職等、多方面でサポートをワンストップサービスで行い得る支援体制を整備した。

2020年度のコロナ禍における新規大学院留学生受け入れにおいて、オンラインシステムを持ち、渡日前における危機管理オリエンテーションを行い、さらに、入国後の空港近辺での隔離期間中も、国際連携推進部門が定期的にオンラインホームルームを行い、コンサルテーション、学生相談、生活状況確認など含めて心身のケアに最大限の注意を払って、総合的サポートを行った。本事業もこれまで同様に国際連携推進部門が担当し、研究科内および本学留学生担当部門、国際交流担当部門および学生相談・特別支援センターと連動・協力しながら、プログラムの設計、運営、海外連携校との調整、交渉などの業務のみならず、学生サポート、留学生カウンセリングを担う予定である。本事業の実施においては、今まで構築済のテレビ会議システムを事前調整、打ち合わせ、運営、学生選抜に活用していく。また、学生受入・派遣プログラムの実施においては、ニューノーマル社会に適用すべく、オンライン交流、実渡航による交流、ハイブリッド型の交流を組み合わせ、柔軟に対応できる体制を構築し、受入前後におけるオリエンテーションやフォローアップにオンライン交流を積極的導入するとともに、事業初年度はオンライン交流を中心として行い、その後、ハイブリッド型の交流に移行し、徐々に実渡航による交流にシフトして行く。さらに、今まで行ってきた学生・研究者の短期派遣・受入で構築した連携体制も本事業で活用できるものである。

（東北大学の国際戦略への貢献）2018年のアジア地域のGDPは27兆3860億ドルであり、世界GDPの32.8%を占めており、欧米に比肩・対抗できる第三軸として注目されている。アジア地域の総人口も45億人超と、市場規模がヨーロッパと北米と比べ最も大きく、歯学教育および歯科医療機器産業も、成長分野として需要が高まっている。本事業は、歯科医療・口腔保健ならびに歯科医療技術・機器における我が国の優位性をアジア・太平洋地域に発信すると共に、「マルチモーダルなグローバルリーダー的人材」のアジア・太平洋地域からの受け入れ・養成と同地域への供給を実現、頭脳循環型の人材交流を活発化することにより、東北大学の「知」に基づく、アジア・太平洋地域、そして世界の歯学教育研究拠点として歯学教育研究をリードするものである。さらに、我が国がリードしてアジアにおける歯学教育・歯科医療の標準化を達成し、我が国の歯学教育、歯科医療器材ならびに医療技術・サービスの世界への展開、さらには歯科医療ツーリズムでの優位性の獲得に貢献する。これらは、グローバル化の進展による医療従事者の資格、免許の国際共通化の潮流の中、アジア・太平洋地域において我が国が主導・先取しうる基盤を持続的に発展させることができる。さらに、本事業でのグローバルリーダー育成を通して、アジアでの中心的役割を確立しつつ、東北大学のリーダーシップの下、アジア地域における大学間交流を促進し、本学の国際競争力や国際通用性を向上するとともに、国際的なハブとしての機能を強化する。東北大学の中でも先導的と言える本事業の展開による得られたノウハウを学内に還元し、本学の国際戦略ビジョンの実現に寄与する。

【計画内容】

アジアスタンダードに基づくマルチモーダルなグローバルリーダー育成をすべく、東北大学歯学研究科の「インターフェイス口腔健康科学」を基軸とし、中国の北京大学、四川大学、韓国のソウル大学校、延世大学校、タイのチュラロンコーン大学、インドネシアのインドネシア大学と連携し、これまでの日中韓泰の間での歯学教育連携組織をインドネシアに拡大し、日本のリーダーシップの下、日中韓泰尼によるアジア型デンティストリーコンソーシアムを構築する。それぞれの事業責任部署等が定期的に事業推進会議を開催し、本事業の企画運営を行うとともに、以下の国際連携教育プログラムを実施する。

なお、本プログラムでは、歯学教育課程（歯科医師養成課程（6年制）及び研究者・教育者養成課程（4年制））に即して学部学生と博士課程大学院生が主たる対象となる。ただし、本学は日本唯一となる歯学修士課程（2年制）を設置しているため、これら修士課程大学院生もセメスターベース双方向交流プログラムへ参加可能とするなど、本事業の対象としている。

1. グローバルモビリティ・プロモーション

- 学生交流プログラムの実施
- 外国人留学生による日本歯科企業、保健医療行政でのインターンシップ

2. グローバルリーダー・インキュベーション

- 日中韓泰尼歯学ダブル・ディグリー(DD)プログラムの実施
- 国際共同教育プログラムのアジア全域への展開を通じ、アジア歯学ジョイント・ディグリー(JD)プログラムを目指す

3. グローバルプレゼンス・イニシアティブ

- 国際共同シンポジウム開催
- 国際共同研究・研究者教員交流
- Asian Dental Leader's Leagueを構築し、アジアに根差した歯学・歯科医療（アジア型デンティストリー）を普及

「マルチモーダルな人材」とは、習得した多方面の知識・技能を自己で醸成・統合し、教育、研究、医療、産業、行政等、多様な場でそれぞれの連携を意識しつつ、その場で必要とされる知識・技能を適切に抽出し、実践できる人材である。すなわち歯学・歯科医療でのイノベティブな研究開発のみならず、それらの社会実装を能動的に推進し、歯学・歯科医療・口腔保健を通して社会の抱える課題を多方面から解決できるリーダー的人材をいう。

（i）実渡航による交流

下記のプログラムは実渡航による交流を2022年後半から実施し、新型コロナウイルス感染症流行状況を踏まえ、徐々に実渡航の割合を増やしていき、2023年後半からは完全な実渡航による交流に置き換える。

■ 学生交流プログラム

学部学生双方向短期交流プログラム（3ヶ月未満）により、日本・海外連携機関教員指導のもと、参加学生が日中韓泰尼の全ての連携国の口腔保険医療、歯学教育研究、歯科医療現場に参画し、体験型学習を行うことにより、国際的視野を養い、学生レベルでの歯学・歯科医療国際ネットワークを早期構築し、歯学部での国際化推進学生リーダーを養成すると共に、大学院進学の動機付けを行い、学部段階からの一貫したグローバルリーダー養成を実現する。本プログラムはUMAP単位互換方式に従い、交流期間に応じ、2～8単位相当な研修および研修発表会ポスター発表を修了要件とする。大学院生セメスターベース共同研究推進型双方向交流プログラム（6ヶ月以上1年以下）を実施する。参加学生は海外連携先全ての国でそれぞれ一定期間滞在し、連携校指導教員によるジョイント・スーパーバイズを通じ、共同研究をベースとした勉学を行う。

本プログラムはUMAP単位互換方式に従い、交流期間に応じ、20～40単位相当の研修、研究報告書および研修発表会口頭発表を修了要件とする。上記のプログラムは学修履歴・成績共通管理を強化し、学習成果、学習内容および修了証のデジタル化を確立する。

■ 外国人留学生による日本歯科企業、保健医療行政でのインターンシップ

本事業に受け入れたすべての外国人留学生を対象に、日本の歯科材料メーカーおよび保健医療行政での体験活動を主としたインターンシッププログラムを日本歯科産業の国際展開およびグローバルな保健医療制度設計のアーリーエクスポージャープログラムとして実施する。海外連携校においても、受入学生に対する同様なインターンシッププログラムを実施する。

■ 日中韓泰尼歯学ダブル・ディグリー(DD)プログラム

東北大学—北京大学、東北大学—四川大学（2013年設置済）、東北大学—ソウル大学校（2016年設置済）、東北大学—延世大学校（2019年設置済）、東北大学—チュラロンコン大学（2020年設置済）間歯学DDプログラムの受入・派遣を強化する。さらに、東北大学—インドネシア大学間歯学DDプログラムを2021年度に設置し、2022年度からは学生の受入・派遣を開始する。DDプログラムの修学年限である3～4年の間、受入先で1年以上2年未満滞在し、共同研究をベースとした学習を行う。学生1名につき、本研究科教員3～4名と連携科教員1～2名からなる共同指導体制を取り、研究指導リエゾン会議を設置する。本会議のもと、Qualifying Examination (QE)を導入し、入学時面接 (QE0)、研究テーマ選定会議 (QE1)、研究進捗報告会 (QE2)、学位予備審査 (QE3)、学位本審査 (QE4)を実施することで修学状況を共有し、段階的形成的評価に基づく学位の質の保証を行う。さらに、UCTSによる単位相互認定および成績共通管理を強化し、学習成果および学習内容のデジタル化により教育の質保証に努める。

■ 国際共同シンポジウム開催

2023年後半から大学院共同教育、国際共同研究の推進、社会発信を目的に、キャンパス・アジアプラスデンタルシンポジウムを2年に一回、連携校間の国際連携学術シンポジウムを毎年、定期的に開催する。このように、頻繁な交流をもつことで、本プログラム修了者との綿密な研究、教育の情報交換、連携を強化し、共同研究の推進、修了者への支援・フォローアップの増強を図ると共に、具体的な大学院学生の募集・採用、就職・フォローアップまでの一助としていく。

■ 国際共同研究・研究者教員交流

上記のシンポジウムを通し、国際共同研究の推進、研究者・教員交流の推進（サバティカル制度による教員交流）、研究指導・派遣授業を目的とした教員派遣・受入を実施、国際産学官連携を推進し、歯学グローバル人材育成のみならず、日本の歯科産業国際展開にも寄与する。

（ii）オンライン交流

新型コロナウイルス感染症流行の現状を踏まえ、2021年度から2022年前半までは、下記のプログラムはオンライン交流を実施する。

■ 学生オンライン交流プログラム

日本・海外連携機関教員による集中講義、研究室・教育現場のバーチャル見学、オンラインワールドカフェ、オンライン研究指導などを中心とした、学部学生双方向短期交流プログラムおよび大学院生セメスターベース共同研究推進型双方向交流プログラムを実施する。さらに、成果発表会を通じ、学習成果を共有するとともに、問題抽出・改善を行う。なお、学生交流プログラムの派遣前後におけるオリエンテーション、フォローアップは2022年以後もオンラインで行う。

■ 外国人留学生による日本歯科企業、保健医療行政でのバーチャルインターンシップ

外国人留学生を対象に、日本の歯科材料メーカーおよび保健医療行政でのバーチャル体験・見学を行う。海外連携校においても、受入学生に対する同様なインターンシッププログラムをオンラインで実施する。

■ 日中韓泰尼歯学ダブル・ディグリー(DD)プログラム

DDプログラムの修学年限である3～4年の間、派遣元に滞在中は、オンラインでの研究指導、プログレスレポート、大学院科目をオンライン受講すると共に、学位研究の一部を派遣元研究機関で行う。なお、DDプログラム学位最終審査・研究発表会はオンラインで行う。

■ 国際共同シンポジウム開催

2021年の連携校間の国際連携学術シンポジウムはオンラインで開催する。

（iii）実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流

2022年後半から2023年前半まで、下記のプログラムは実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型交流を実施する。

■ 学生交流プログラムおよび外国人留学生による日本歯科企業、保健医療行政でのインターンシップ

学部学生双方向短期交流プログラムおよび大学院生セメスターベース共同研究推進型双方向交流プログラムについて、派遣前におけるオリエンテーション、日本・海外連携機関教員による集中講義、ワールドカフェ、研究指導、派遣後におけるフォローアップをオンラインで行い、研究室・教育現場の見学、口腔保険医療、歯学教育研究、歯科医療現場での体験型学習は実渡航により行う。さらに、外国人留学生を対象とした、日本の歯科材料メーカーおよび保健医療行政でのインターンシッププログラムは実渡航により実施する。

■ 日中韓泰尼歯学ダブル・ディグリー(DD)プログラム

DDプログラムの修学年限である3～4年の間、一学年前半までは、派遣元修学し、受入先の大学院科目一部をオンライン受講すると共に、共同研究指導体制による研究指導、プログレスレポートをオンラインで行う。二学年後半からは受入先に渡航し、修学を行い、最終学年には派遣元に戻り、修学を継続する。学位最終審査・研究発表会はオンラインで行う。

■ 国際共同シンポジウム開催

2022年から2024年前半まで、キャンパス・アジアプラスデンタルシンポジウムおよび連携校間の国際連携学術シンポジウムをハイブリッド形式で行う。

本事業の最終年度には参加者・修了者によるAsia Dental Leader's League を構築し、本事業で輩出したマルチモーダルなグローバルリーダーからなる歯学・歯科医療国際ネットワークにより、アジアに根差した歯学・歯科医療（アジア型デンティストリー）の普及をはかり、アジア地域における歯学・歯科医療のレベル向上およびライフイノベーションを実現する。さらに、国際共同教育プログラムのアジア全域への展開を通じ、人材交流を活発化し、持続可能な最高峰人材育成に寄与するアジア歯学ジョイント・ディグリー(JD)プログラム設置を目指す。これにより、アジア地域の教育・経済における活力を活用し、日本の歯学教育・高度専門人材育成教育におけるサステナブルは発展を実現する。

⑤ 質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 【4 ページ以内】

【実績・準備状況】

東北大学の留学生受入は経年増加傾向であり、特に大学院歯学研究科での留学生受入の増加が顕著である。2019年度年間留学生受入数は2010年の17名から112名まで増加した。しかも、留学生の出身国を見ると、中国、韓国のみならず、モンゴル、タイ、インドネシア、インド、イランなど東南アジア、南アジア、中東地域からも質の高い留学生を受け入れ続けている。

本事業では中国の北京大学、四川大學、韓国のソウル大学校、延世大学校、タイのチュラロンコーン大学、インドネシアのインドネシア大学と連携し、事業展開を計画している。東北大学は歯学研究、歯科医療ならびに歯科医療技術・機器開発レベルは、世界トップのレベルを誇っている。また、中韓の連携校は歯学におけるトランスレーショナルリサーチや研究成果の実用化において、日本、ASEANより高い実績およびレベルを誇示しており、歯学教育における国際連携・標準化および相互認証については、ASEAN、特にタイとインドネシアは日中韓の先を行っている。本事業では連携校のこれらの強みを活かし、連携により事業展開を目指す。さらに、これらの海外連携校はIAU (International Association of Universities)のWHED (World Higher Education Database)に掲載されており、自国で教育、研究、臨床において高いレベルを誇っており、QS Ranking2022において北京大学18位、ソウル大学36位、延世大学79位など世界的にも公認の有数な大学である。特に歯学教育・研究・診療に置いては先導的立場にあり、QS Ranking in Dentistry2021において北京大学32位、ソウル大学校37位、四川大學44位、延世大学51位など国際的評価も高い。チュラロンコーン大学およびインドネシア大学もQS Ranking2022において、それぞれ215位、290位にランクインされ、教育・研究においてタイ、インドネシア国内のトップレベルを誇っている。従って、本事業の発展と継続、質の保証が可能である。

東北大学大学院歯学研究科では、留学生の質の保証の観点から、海外連携校からの推薦を主とし、書面審査と面接を含む厳密なスクリーニングシステムを導入し、留学生の受け入れを行っている。また、2013年度から2020年度までは「我が国の大学と外国の大学間におけるジョイント・ディグリー及びダブル・ディグリー等国際共同学位プログラム構築に関するガイドライン」に厳密に従い、中国の北京大学、四川大學、天津医科大学、武漢大学、韓国の全南大学、ソウル大学、延世大学、タイのチュラロンコーン大学など東アジア、東南アジア歯学機関校と「アジア歯学ダブル・ディグリープログラム」(DDプログラム)を設置し、学生の受入・派遣を行っており、大学院博士課程では海外連携校とのUMAP単位互換方式を基準とした単位互換、相互認定システムが導入済みである。インドネシア大学とは2021年度の歯学ダブルディグリープログラム設置に向けて協議を始めている。2013年度および2019年度には文部科学省国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムに歯学研究科として2度採択され、東南アジア・南アジア地域からの優秀な留学生の受け入れが強化された。2019年度には歯学研究科も参画している「未来型医療創造卓越大学院プログラム」が採択され、Qualifying Examination (QE)を導入し、進級および修了要件にQE1, QE2の合格を要件にするなど、教育の質保証に取り組んできた。本事業は、既存の国際コースおよびDDプログラムの発展型として歯学研究科歯科学専攻にて運用する。

既存のDDプログラムへの出願学生の一次選考は、協定機関・基幹校からの推薦のもと、書類選考(入学願書、卒業証明、成績証明、推薦書、出身校の成績表(GPA2.3以上、GPA2.5以上を優先)、英語による小論文、英語能力証明(TOEFL iBT 80以上、IELTS 6.5以上、TOEFL ITP 550以上))を通して、応募学生の学力、語学力等について総合判断を行う。次いで、一次選考により選抜された学生についてインターネットでの面接による二次選考を行う。一次・二次選考は大学院教務委員会が行い、研究科委員会に推薦する。最終選考は研究科委員会にて行っている。既存のDDコースは講義、演習、実習、研究指導は全て英語にて行っており、研究科の専任教員、協力講座・共同研究講座、海外連携校の教員が携わり、学生1名につき、本学教員3～4名と連携校教員1～2名からなる共同指導体制を取っており、研究指導リエゾン会議の定期的開催により、修学状況の共有化を図り、効果的な高品質共同教育を実現している。さらに、成績・単位取得状況を学内教務システムで指導教員に公開するとともに、構築済のポートフォリオ・システムを活用し、複数の指導教員による様々な観点からの学生への助言体制、各自の到達度に応じ、学生自ら課題を見つけ、ステップアップできる自己研鑽体制を構築した。また、上記の定期開催の研究指導リエゾン会議にて状況の確認と指導内容・方法等について協議し、さらに、DDプログラム独自の評価システムにより、学年単位で学業評価を行い、優秀な成績を修めた学生を表彰し、支援する仕組みの導入により、留学生および日本人学生間での切磋琢磨を促進し、学力・研究力の向上が可能になった。本事業では、既存の二大学間の移動をメインとしたDDプログラムのASEANへの展開を進めるとともに、二大学間の移動から連携校全体の移動を可能とする点から面の交流に発展させる。

具体的には、1年次には既存の大学院国際コースFuture Global Leadership (FGL) コースの1つである「インターフェイス口腔健康科学コース」、および「アジア・ダブルディグリーコース」の履修科目である歯学基盤科目、研究基盤科目、国際連携科目、学際連携科目を履修する。後期には研究テーマ選定会議を通じ、博士課程の研究テーマを決定する。2年次および3年次には、博士論文特別研修としてテーマ研究を遂行するとともに、留学生歯科臨床実習、災害歯科医療学、トランスレーショナルリサーチ学、人工知能学、情報技術応用学を履修すると共に、歯科教育用患者ロボットシミュレーションシステム(SIMROID)を用いたクリニカルスキルトレーニングプログラムを実施する。この間、本研究科と連携機関・基幹校との国際連携セミナー、異分野研究領域との学際融合研究セミナーを開催、学生の研究成果の発表を行い、国際知、融合知を涵養し、多様な視点からの学びを修得する。また、「東北イノベーション人材育成コンソーシアム(DATEntre)」事業や「留学生就職促進プログラム」との連携を強化し、各年次の夏季休業期間には企業見学を実施するとともに、4年次には、日本の口腔保健行政機関、歯科機材メーカーでのインターンシップを実施する。学生は4年間で必須科目と選択科目の履修による30単位(歯学特論9単位、歯学演習6単位、博士論文特別研修9単位、実験技術トレーニングコース6単位)を修め、博士論文作成、予備審査、最終審査により博士学位が授与される。

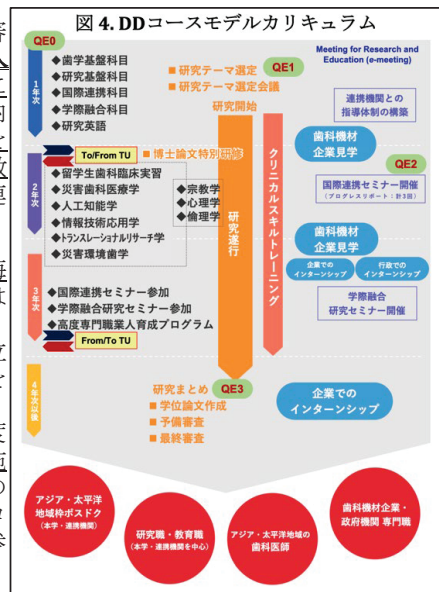
海外連携校とのアカデミックカレンダーの相違を考慮し、既存のDDプログラムは、中国の大学間のDDプログラムは4月入学と10月入学を可能とし、韓国の大学とは4月入学、タイの大学とは10月入学を主とするプログラムの構成になっている。さらに、中国に例にすると、大学院コースは修士課程、博士課程、修士博士一貫コースがあり、既存DDプログラムでは博士課程および修士博士一貫コースの学生を対象とするなど、海外連携大学のアカデミックカレンダーおよび教育システムも相違を考慮したプログラム構成になっている。さらに、海外大学との単位制度の相違を考慮し、それぞれの大学とDDプログラムに関する協定書を調印し、さらに、単位互換に関する覚書により、単位授与、相互認定などを取り決め、プログラム運用に資した。

本研究科では「歯学イノベーションリエゾンセンター」を2011年に設置し、歯学教育研究における国際連携、学際融合・産学官連携、地域連携の強化を図ってきた。特に国際連携推進部門では専任教員（教授1名、助教2名）による国際共同教育カリキュラムの企画運営、国際共同研究の推進等、国際連携のコーディネートを行っている。留学生に対しては出願時から修了後に至るまで学業、生活、就職等、多方面でサポートをワンストップサービスで行い得る支援体制を整備した。また留学生一人一人に日本人学生をチューターとして配置し、来日初期における生活面でのサポートも行っている。

また本学学生相談・特別支援センターでは、英語対応可能な専門カウンセラー（臨床心理士）を配置しており、留学生向けのコンサルテーションのみならずカウンセリングも行なっている。さらに2022年度中には、歯学研究科内にも英語対応可能な学生相談室の設置を予定しており、学生相談・特別支援センターでのケアと連動した、留学生に対する複数の支援体制が確立される。2019年度には国際連携推進部門に専属の外国人教授を配置、さらに、日本語、英語、中国語、韓国語、タイ語が堪能な教員を配置、英語堪能な事務職員の配置を行い、プログラムの設計、運営、海外連携校との調整、交渉などの業務を担当するとともに、留学生に対しては出願時から修了後に至るまで学業、生活、就職等、多方面でサポートを行い、留学生支援体制および国際競争力を一層強化すると共に、連携基幹校からの推薦学生を優先的に受け入れることにしており、海外連携機関教員間の連携によるフォローアップ体制も構築済みであり、学生の履修に支障がないような配慮を行なっている。さらに、連携校間の教員交流のみならず、定期的に教員FD開催により、教員の研究教育指導力の向上を図っている。

本事業では、既存のDDプログラムのカリキュラム見直しを行い（図4）、研究テーマ選定会議、研究進捗報告会、学位予備審査、学位本審査などからなるQualifying Examination (QE0, QE1, QE2, QE3)を導入し、段階的形成的評価に基づき学位の質の保証を行うとともに、UCTSによる単位相互認定および成績共通管理を強化し、学習成果および学習内容のデジタル化により教育の質保証に努める。さらに、ルーブリックを用いた各履修科目の到達目標の達成水準を明確化すると共に、大学院教務委員会、研究科委員会による検証を確実にし、新時代の文理異分野連携型・産学官国際連携型の歯学教育を推進する。

歯学研究科では、歯学部カリキュラムに留学科目を設置し、学部学生海外短期留学プログラムの単位化を実現した。受入・派遣の学生の選抜は連携校推薦のもとGPAスコア、英語検定試験スコア、面接試験を通じて行っている。2013年には学部における短期派遣・受入プログラムの単位化を実現し、歯学部カリキュラムに留学科目として「歯学海外研修」を設置し、東アジアおよびASEAN諸国の歯科大学への学部学生短期派遣、またこれらの国々からの歯学生短期受入を毎年行なっており、2020年度のコロナ禍においても、初となるオンライン短期受入プログラムを実施し、病院や研究所の動画中継によるバーチャル見学も行った。これらのプログラムで蓄積したノウハウは、ニューノーマルにおける本申請プログラムの実施に大きく寄与できるものである。さらに、歯学研究科も参画している東北大学Cooperative Laboratory Study Program (COLABS)



およびResearch-Oriented Incoming Students (ROIS)による学生の短期派遣・受入プログラムでは、交流期間に応じ、厳格に修了要件（12CETS相当の研修、5ページ以上の英語の報告書、研修発表会での発表など）を設けており、歯学研究科でのCOLABS、ROISプログラムによる受入・派遣を毎年行なっており、これらの修了要件を基準に、本事業での短期交流プログラムの修了要件にUMAP短期互換方式を導入し、さらに、既存のプログラムの運用方法を本申請プログラムにも導入することで、派遣・受入前後におけるオリエンテーション、フォローアップを充実させ、短期交流プログラムから博士課程に進学する学生の発掘を強化し、教育の質保証に努める。

研究者交流も活発に行うことにより国際共同研究体制も強化した（2020年度は海外から22名の客員研究員を受入）。2013年度からはSydney-Tohoku Dental Symposium、Tohoku-Peking Dental Symposium、China-Japan-Korea Dental Science Symposium、Tohoku-Chulalongkorn Dental Symposium、Tohoku-Taiwan Dental Symposium等国際連携共同シンポジウムを毎年実施し、国際共同研究を推進、国際的プレゼンスの向上とアジア太平洋地区における研究拠点化を促進した。2020年度のコロナ禍においても、ネット会議システムなどデジタルツールを活用し、海外連携校の間で、Hong Kong-Tohoku Dental symposium、Chiang Mai-Tohoku Dental Symposium、Mongolia-Tohoku Scientific Symposiumなど、オンライン国際連携共同シンポジウムを計4回開催した。これらのシンポジウムでは、協定機関・基幹校関係者が一堂に会し、頻繁な交流をもつことで、研究、教育の情報交換だけでなく、教育プログラムの現状、問題点、改善点や具体的な大学院学生の募集・採用、就職・フォローアップまでついて議論を行い、教育力の向上および質の高い教育が提供できる体制の充実を図っている。

2018年、東北大学大学院歯学研究科が主たる設立メンバーとなり、アジア太平洋歯学教育協会（ADEAP）を設立し、Association for Dental Education in EuropeとAmerican Dental Education Associationとともに、WHOの公式パートナーとして認定されている。2020年にはADEAPに本学の教員が委員長を勤める歯学教育ガイドライン策定委員会を設立し、コロナ禍における歯学教育のガイドライン（Guideline for Dental Education under COVID-19 Situation）を2020年6月に発表し、現在、アジア・太平洋地域における歯学教育スタンダードについて検討を始めている。2017年には在学学生、卒業生からなる東北大学国際歯学生協会（TUIDSO: Tohoku University International Dental Students' Organization）を設立し、在学学生、修了生のフォローアップとともにアジア型歯学・歯科医療のアジアへの展開に取り組んでいる。

2020年からはTohoku University Dental Alumni Association (TUDA)の設立について検討を始め、2021年1月にはTohoku University Dental Alumni Association Indonesia (TUDAI)が設立され、Tohoku University Dental Alumni Association Thailand (TUDAT)およびTohoku University Dental Alumni Association China (TUDAC)も2021年度中の設立を予定している。TUIDSOとTUDAとの連携により、修了生のフォローアップ、優秀留学生のリクルート、歯学教育・研究のグローバルネットワークの構築に強力なサポートを行うことが可能になる。

【計画内容】

（i）実渡航による交流

■ 大学院博士課程進学を見据えた学部短期交流プログラムおよび共同研究推進型大学院生短期交流プログラム

東北大学大学院歯学研究科グローバルアンバサダーおよび歯学部ジュニアグローバルアンバサダーと連携し、短期受入を推進し、**教育、臨床、研究における体験、勉学のみならず、日本文化の理解、生活面での支援**を行う。また、国際連携推進部門のサポートのもと、受入においても**単位取得可能なプログラム**にするための制度作りを始める。標記の短期交流プログラムを通して、高い国際的汎用能力、コミュニケーション能力、チャレンジ精神、国際的視点を兼ね備えた学生を発掘し、学部入学から一貫したグローバルリーダー養成を推進する。**学部学生双方向短期交流プログラム**の交流期間は3ヶ月未満に設定し、**質保証の観点から、UMAP単位互換方式に従い、交流期間に応じ、2～8単位相当な研修および研修発表会ポスター発表を修了要件とする**。なお、受入・派遣学生が所属大学での履修には支障が無いよう、連携校の**授業休み期間**を利用して行うことにする。**大学院生セメスターベース共同研究推進型双方向交流プログラム**は6ヶ月以上1年以下に設定し、参加学生は**海外連携先全ての国でそれぞれ一定期間滞在**し、それぞれの国の文化・歴史的背景が歯学教育・研究・臨床に及ぼす影響および口腔保健現状を理解するとともに、それぞれの連携校のトランスレーショナルリサーチ、研究成果の実用化、歯学教育の相互認証・標準化について勉学することを参加基準とし、UMAP単位互換方式に従い、交流期間に応じ、20～40単位相当な研修、研究報告書および研修発表会口頭発表を修了要件とする。上記のプログラムは**学修履歴・成績共通管理を強化し、学習成果、学習内容および修了証のデジタル化を確立する**。さらに、**派遣・受入の前後にオンラインによる「事前体験プログラム」および「フォローアッププログラム」**を組み込むことにより、学習効果を高めるとともに、本短期プログラム参加者・修了者からなる**Asia Dental Leader's League**を構築し、プログラムのプロモーションおよびリクルートを強化し、質の高い交流プログラムの安定的実施および充実したフォローアップを可能とすると共に、**新たな留学生層や学位取得を目的として長期留学生の発掘に努める**。

■ 歯学博士課程ダブルディグリー（DD）プログラム

既存のDDプログラムの受け入れ体制の強化、2021年度に設置予定のインドネシア大学—東北大学DDプログラムにより、優秀な留学生の受け入れを可能とする。**「我が国の大学と外国の大学間におけるジョイント・ディグリー及びダブル・ディグリー等国際共同学位プログラム構築に関するガイドライン」**に厳密に従い、プログラムの設計を行うと共に、連携校間の学事暦の相違から、学生受け入れは**4月と10月入学を実施**する。さらに、大学院教育システムの相違（修士学位有無など）を考慮し、**博士課程短縮修了制度を有効に活用**する。互換可能な単位（UCTS基準）は20単位を上限とする。学生の履修登録、単位の相互認定、単位互換の手続などは教務係で一括して行う。本プログラムの全ての講義、演習、実習、研究指導は、英語にて行う。さらに、**Qualifying Examination（QE）を導入し**、QE0、QE1、QE2およびQE3合格を進級、修了要件とする。本プログラムには本研究科教員3～4名と連携機関教員1～3名からなる**共同指導体制**を取る。これら教員による**研究指導リゾン会議の定期的実施**により、共同指導を実質化する。学位については**共同論文審査委員会**で予備審査、本審査により学位論文審査を行う。

■ 外国人留学生による日本歯科企業、保健医療行政でのインターンシップ

本事業に受け入れたすべてのDDプログラム外国人留学生を対象に、日本の歯科材料メーカーおよび保健医療行政での体験活動を主としたインターンシッププログラムを企画し実施することにより、日本歯科産業の国際展開およびグローバルな保健医療制度設計の一助になる。短期受入学生については、バーチャルインターンシップを組み込んだハイブリッド型を中心として実施する。

■ 外国人留学生を対象にHuman Experience（HX）に主眼をおいたクリニカルスキルプログラムおよび災害歯科医療学の実施

自然災害などの多発は日本のみならず東アジア、東南アジアともに共通の社会問題になっており、災害時の歯学が果たすべき役割の啓発は必須である。留学生達はライセンス制度の制限により、歯科臨床を体験する機会がないのが現状である。標記プログラムに参加することにより、日本と自国の歯科医療、口腔保健の相違を認識し、改良点を見つけることができる。また、災害時歯科医療などに関するナレッジを学習し、自国の人材育成に活用するできるリーダー的グローバル人材を育成する。

■ 外国人教員交流

国際公募を通じ、外国人教員招聘を強化すると共に、連携校間でのサバティカル制度による教員交流を奨励し、研究指導・派遣授業を目的とした教員派遣・受入を実施する。

（ii）オンライン交流

■ 優秀な外国人留学生・日本人学生選抜計画

学部短期交流・大学院生共同研究推進型中長期交流・大学院国際共同教育プログラムの学生選考はオンラインシステムを活用し、以下の通り行う：一次選考は連携機関・基幹校からの推薦のもと、書類選考（願書、卒業証明、成績証明、推薦書、出身校の成績表（GPA3.0満点で2.5以上）、英語による小論文、英語能力証明（TOEFL、IELTS等））を通じ、応募学生の学力、語学力等について総合判断を行う。二次選考はテレビ会議によるインターネット面接を通じて行う。最終選考は研究科委員会および日中韓泰尼コンソコンソーシアムで行う。

■ 大学院博士課程進学を見据えた学部短期交流プログラム

新型コロナウイルス感染症の流行を鑑みて、**2022年度はオンライン交流を中心として行い、次年度からオンラインと対面交流を組み合わせたハイブリッド型に移行し、最終的には対面交流を中心とする交流**を行う。オンライン交流においては、連携校での教育・研究・臨床での取り組みを紹介すると共に、東北大学および海外連携校から著名な研究者を招聘し、世界最先端の研究・教育に関するオンライン集中講義を行うことにより、日本及び海外連携校への留学意欲、博士課程への進学率を高める。さらに、ワールドカフェ、ブレイクアウトルームを活用し、学生間、学生と教員間の交流を促進し、問題提起、問題抽出、問題解決能力および教育効果を高める。また、成果発表会を通じ、教育効果の検証、フィードバックを行う。さらに、実渡航による**派遣・受入の前後にオンラインによる「事前体験プログラム」および「フォローアッププログラム」**を組み込むことにより、教育効果向上に寄与する。

■ 日本歯科企業、保健医療行政でのインターンシップ・クリニカルスキル・災害歯科医療学プログラム

アーリーエクスポージャープログラムとして、日本の歯科材料メーカーおよび保健医療行政でバーチャル見学ツアーにより、実渡航後の対面プログラムの実施につなげる。さらに、本学が取り組んでいる技能教育DXプロジェクトを活用し、バーチャル空間におけるスキルトレーニング、災害歯科医療学実地研修を体験する。

(iii) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流

- 大学院博士課程進学を見据えた学部短期交流プログラム
- 歯学博士課程ダブルディグリー(DD)プログラム
- 外国人留学生による日本歯科企業、保健医療行政でのインターンシップ
- 外国人留学生を対象にHuman Experience (HX)に主眼をおいたクリニカルスキルプログラムおよび災害歯科医療学の実施

本事業の中期(2022年度)には、上記のプログラムのハイブリット交流を実施するとともに、後期(2023年以後)に実渡航が可能な状況でも、オンラインとの組み合わせにより、プログラムの教育効果を高めると同時に、質保証に努める。

質を伴った魅力的な大学間交流の枠組



評価体制の構築

本事業では、ポートフォリオ・システムを活用した学生の活動成果(学会発表、論文発表、授業成績)・プログラムの満足度・自己評価、教員による評価、プログラム志願者数、国際共同研究件数などを通じ、年度ごとに総合的にプログラムに対する**短期自己評価**を行う。また本プログラムの成果は、2年毎に日中韓国際シンポジウムにて発表および国際雑誌への論文発表を通じ、**社会発信**を行う。さらに4年に一度、内部評価、有識者・海外連携機関による**外部評価**を実施する。これらの評価を有効にフィードバックし、より効果的なプログラム運営を推進する。

さらに、参加者・修了者からなる**Asia Dental Leader's League**を構築し、プログラムのプロモーションおよびリクルートを強化し、質の高い交流プログラムの安定的実施および充実したフォローアップを可能とする共に、国際共同教育プログラムのアジア全域への展開を通じ、人材交流を活発化し、最高峰人材育成を可能とするアジア歯学ジョイント・ディグリー(JD)プログラム設置を目指す。

達成目標 【①～④合わせて7ページ以内】

① 将来の関係を見据えた連携強化に資する目標について

(i) 事業計画全体の達成目標（事業開始～2025年度まで）

アジアでは急速な経済発展、社会基盤の向上に伴い、近年、歯科医療需要および歯科材料・器械市場が著しく拡大している。しかしながら歯学教育研究、歯科医療・口腔保健ならびに歯科技術・機器開発レベルは未だ発展途上であり、更なる人材供給・技術提供が望まれている。加えて、教育研究基盤の向上のための人材も必要としており、多くの学生が、また教員が研究力・臨床力の獲得に繋がる高度な歯学教育を求めている。

我が国の歯学教育研究、歯科医療ならびに歯科医療技術・機器開発レベルは、欧米主要諸国とともに世界トップに位置する。しかし、我が国の歯学教育研究、歯科医療の根底に潜む倫理観、健康観は欧米とは大きく異なっており、日本古来の道徳観、死生観を反映している。また歯や口、顔の形、機能、さらには疾病構造も異なり、欧米標準の歯科医療術式、器材をそのまま適応しているわけではなく、我が国独自の理論・技術体系、およびそれに対応した教育体系を用いることが多い。

これらは他のアジア諸国に目を転じて共通である。倫理観、健康観、死生観のみならず、解剖学的・病理学的要件等の文化間、人種間での相違は、歯科医療を取り巻く状況を欧米とは明らかに異なるものとしている。しかし我が国においても、アジアにおいても、歯科医療理論・技術は未だに欧米型を標準とすることが多い。特に東南アジアでは歯学教科書、歯科医療機器の殆どを欧米からの輸入に頼っているのが現状である。これらの背景から、アジアで歯学における共通のスタンダード（アジアスタンダード）での教育・臨床とその評価が必須であり、歯学教育研究、歯科医療の「アジアスタンダード」に基づくアジア型デンティストリーの確立およびそれに貢献しうるマルチモーダルなグローバルリーダーを育成する本事業は、アジア諸国の社会的・文化的・経済的背景および認識に根ざした高度専門人材を育成する質の高い教育連携プログラムである。「マルチモーダルな人材」とは、習得した多方面の知識・技能を自己で醸成・統合し、教育、研究、医療、産業、行政等、多様な場でそれぞれの連携を意識しつつ、その場で必要とされる知識・技能を適切に抽出し、実践できる人材である。すなわち歯学・歯科医療でのイノベティブな研究開発のみならず、それらの社会実装を能動的に推進し、歯学・歯科医療・口腔保健を通して社会の抱える課題を多方面から解決できるリーダー的人材をいう。

本事業では、中韓+ASEANの歯学基幹校と連携して、アジア型デンティストリーコンソーシアムを形成し、事業期間中に東北大学歯学研究科が提唱する次代の歯学概念「インターフェイス口腔健康科学（IOHS）」を基軸とした「アジア歯学ダブル・ディグリープログラム」を実施するとともに、学生短期交流プログラム、研究者教員交流、国際共同研究などの多様なプログラムとの相乗効果を得ながら、マルチモーダルなグローバルリーダー的人材を育成し、本事業終了時には本事業の修了者・参加者からなるAsian Dental Leader's Leagueを構築により、アジアに根差した歯学・歯科医療（アジア型デンティストリー）を確立・普及する。

さらに、日中韓泰尼間のダブルディグリープログラムを基軸とした国際連携教育プログラムの構築によって、学部入学時点からの一貫したグローバルリーダー養成を可能にするとともに、高品質の歯学国際共同教育をアジア全域へと展開することにより、アジア歯学ジョイントディグリープログラムへと発展を目指し、マルチモーダルな高度専門グローバル人材の継続的・安定的育成を実現する。

アジアの歯学教育研究・歯科医療ニーズに応える先端的、国際的歯学連携教育を通して、国際知・融合知を具備するマルチモーダルな高度な専門的知識を備えた指導的人材を育成し、歯学教育研究、歯科医療の「アジアスタンダード」の確立と歯学イノベーションの実現によるライフイノベーションへの貢献を目指す。新時代の文理異分野連携型・産学官国際連携型の歯学教育を基本とする本事業で育成する人材は、アジア・太平洋地域の歯科医師、研究者、教育者に代表される高度専門職業人のみならず、歯科器材企業および政府機関などの専門職員のキャリアビジョンを持っており、これにより我が国の歯学のグローバル化、歯科産業の国際展開を牽引する。

(ii) 中間評価までの達成目標（事業開始～2022年度まで）

- インドネシア大学とダブルディグリープログラムを締結する。
- 大学院博士課程進学を見据えた学部短期プログラムを強化し、安定した受入・派遣を実現する。
- 既存のダブルディグリープログラム（中韓泰）による留学生の安定的受入を実現する。
- 既存のダブルディグリープログラム（中韓泰）による大学院生派遣を実施する。
- 文理融合異分野連携科目を新規設置し、講義を始める。
- 日本企業、保健医療行政でのインターンシッププログラムを構築する。
- 中期評価後の実施を実現する。
- 本事業で連携する大学以外のアジア・オセアニア歯学連携校との学生派遣・受入を可能とする。
- キックオフシンポジウム1回、キャンパス・アジアプラスデンタルシンポジウムを1回開催する。
- 国際共同研究を基本とした若手研究者の派遣・受入を強化する。

② 養成しようとするグローバル人材像について

(i) 事業計画全体の達成目標（事業開始～2025年度まで）

本事業ではアジア型デンティストリーコンソーシアムで醸成された融合知・国際知に立脚し、多様な視点から世界の歯科医療・口腔保健ならびにその技術革新を創造・先導できる能力、習得した多方面の知識・技能を自己で醸成・統合し、教育、研究、医療、産業、行政等、多様な場でそれぞれの連携を意識しつつ、その場で必要とされる知識・技能を適切に抽出・実践できる能力を持ち、歯学・歯科医療・口腔保健を通して社会の抱える課題を多方面から解決できる、「マルチモーダルなグローバルリーダー」を養成する。とりわけ、融合知・国際知に立脚し、本事業では高い国際的汎用能力、コミュニケーション能力、チャレンジ精神、国際的視点を兼ね備えた、アジアを基盤とする研究、教育、医療、産業、並びに行政の各分野で活躍できるリーダー的人材、具体的には（１）教育研究・医療機関において多様な視点から世界の歯科医療の技術革新を創造する歯学研究者・教育者・高度専門職業人、（２）行政機関において、問題抽出・制度設計を通し、世界の口腔保健の抱える課題を解決できる人材（３）歯科医療技術・器材の認証・産業機関において、法規整備・技術革新を先導し、日本の歯科産業の国際展開に積極的に貢献できる人材の養成を目標とする。

(ii) 中間評価までの達成目標（事業開始～2022年度まで）

- コミュニケーション能力と国際的視点を兼ね備えた質の高い学生の発掘
- 融合知、国際知を理解し、これらの習得に積極的に取り組める
- 自国およびアジアの国々における歯学・歯科医療、歯科産業・行政における問題点が指摘でき、改善策を考える能力を身につける
- 日中韓泰の政治、経済、社会、文化などに対する理解ができ、歯学・歯科医療における共通性について考えることができる

（大学名： 東北大学）

（タイプ B①：CAプラス）

③-1 学生に修得させる具体的能力のうち、一定の外国語力基準をクリアする日本人学生数の推移について

(i) 本事業計画において定める外国語力基準及び同基準をクリアする学生数に関する達成目標

単位：人（延べ人数）

	外国語力基準	達成目標	
		中間評価まで (事業開始～ 2022年度まで)	事後評価まで (事業開始～ 2025年度まで)
	【参考】本事業計画において派遣する日本人学生合計数	30人	90人
1	TOEFL iBT 75点以上、またはIELTS 6以上	10人（延べ数）	45人（延べ数）
2	英語研究発表	25人（延べ数）	81人（延べ数）
3			

(ii) 外国語力基準を定めた考え方

本事業で養成するマルチモーダルなグローバルリーダーは、将来歯学・歯科医療、歯科産業・行政の国際ネットワークを構築し、世界展開を推進する教育者、研究者、歯科医師、行政担当者であるため、客観指標としてのTOEFL iBTおよびIELTS語学試験を用いる。スコア基準は、自立した言語使用者レベルで、CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment) のB2レベルおよびアジア・オセアニアの一部一流大学の留学基準として定められているIELTS6.0またはTOEFL iBT 75点を上回る語学力を有する人材を養成する。さらに、アジア型デンティストリーコンソーシアムを構築し、グローバル展開において、専門知識に関する語学力も必要であることから、英語による研究発表により、研究の説明・質疑応答が英語で熟せる人材を基準とし、人材育成に取り組む。

これにより、日本人学生の留学意欲を高めるとともに、海外連携校や国際学者間で専門分野における交流が可能となり、学生レベルでの歯学グローバルネットワークの構築が可能となる。

中間評価までは、3割以上の学生がTOEFL iBT 75点以上、IELTS 6以上をクリアでき、8割以上の学生が国際学会、国際シンポジウム等で英語による研究発表ができ、指導教員と研究内容について英語による討論ができることを目標とする。事業終了時には5割以上の学生がTOEFL iBT 75点以上、IELTS 6以上をクリア、9割以上の学生が英語による研究発表、専門知識に関する説明、教員と研究について討論ができることを目標とする。

(iii) 事業計画全体の目標達成に向けたプロセス（事業開始～2025年度まで）

東北大学では、実践的な英語力や語学試験のスコアを伸ばす授業に加え、無料のeラーニングシステムやTOEFL ITP TESTの無料受験など多様なニーズに対応する英語学習環境を提供している。東北大学イングリッシュアカデミー（TEA）による課外英語講座「TEA's English」を定期的に関講し、日本人学生の春季、夏季集中プログラムへの参加を必須とし、学年毎のレベルにマッチした英語講座を用意し、英語能力試験スコア向上の対策講座を実施するとともに、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能を総合的に鍛え、日本人学生の英語力の習得および向上を目指す。

また、TOEFL ITP TEST実施の拡大を図り、入学から卒業までの継続的な英語能力の測定・把握に努める。在学生の英語の4技能の測定・把握のため、成績優秀者に対するTOEFL iBTの実施を本格化する実施体制の整備を行う。さらに、留学希望者を対象とした、英語運用能力を格段に向上させる「英語学習支援センター」を本学に設立し、日本人学生の英語力を向上させる。

一方、専門英語教育・レベル向上に焦点をあて、歯学研究科における専門英語コース、研究論文執筆講座を日本人学生向けに実施する。また、在学中の留学生と日本人学生が英語による交流ができるワールドカフェを毎月開催し、実用英語のレベル向上を目指す。

上記の取り組みにより、5割以上の学生がTOEFL iBT 75点以上、IELTS 6以上をクリア、9割以上の学生が英語による研究発表、専門知識に関する説明ができる目標の達成に努める。

(iv) 中間評価までの目標達成に向けたプロセス（事業開始～2022年度まで）

東北大学グローバルラーニングセンターが提供する無料のeラーニングシステムや課外英語講座「TEA's English」への参加を必須とし、英語能力試験スコア向上および英語の4技能を総合的に鍛え、日本人学生の英語力の習得および向上を目指す。さらに、TOEFL ITP TEST実施の拡大を図り、TOEFLなど英語能力試験の受験を奨励する制度を作り、日本人学生の英語能力の継続的な測定・把握と学生の英語学習意欲の喚起を図る。

歯学研究科では全ての大学院講義・セミナーを英語で行っており、大学院生の英論文執筆も修了要件にしている。さらに、本事業では専門英語コースを開講し、日本人学生の英語力を向上させる。また、英語力が高い中韓泰尼の受入学生達との国際共修を通じ、英語力向上が可能になるとともに、在学中の留学生と日本人学生が英語による交流ができるワールドカフェを毎月開催し、実用英語のレベルを向上させる。

上記の取り組みにより、日本人学生の専門分野の英論文を読み、内容を要約し、発表できる能力を身につけ、3割以上の学生がTOEFL iBT 75点以上、IELTS 6以上をクリア、8割以上の学生が国際学会、国際シンポジウム等で英語による研究発表ができる目標を達成させる。

(大学名： 東北大学) (タイプ B①：CAプラス)

③-2 学生に修得させる具体的能力のうち、「③-1」以外について

(i) 事業計画全体の達成目標 (事業開始～2025年度まで)

日本人学生

- 外国人留学生の学習・生活支援を積極的に行うことができる
- 海外の学生と継続的連携を保ち、国際ネットワークを構築する

外国人学生

- 日本の社会的・文化的・経済的背景を理解できる
- 日本の理解者として、優秀な留学生のリクルートおよび本学のプロモーションに貢献する
- 母国の東北大学同窓会にて、中心的な役割を果たす

日本人学生および外国人学生共通

- 国際共同シンポジウムに積極的に参加し、運営に携わる
- Asia Dental Leader's Leagueを構築する
- 国際共同研究に積極参加し、国際会議、シンポジウムで研究発表を行う
- 国際視点に立った思考力、問題解決力を身につける
- 文理融合異分野連携、国際連携教育・研究を企画する

(ii) 中間評価までの達成目標 (事業開始～2022年度まで)

日本人学生

- 外国人留学生の学習・生活支援を積極的に行うことができる
- 留学生と歯科臨床に関する討論ができる

外国人学生

- 自国と日本の歯学・歯科医療における相違を理解する

日本人学生および外国人学生共通

- 国際共同シンポジウム、国際共同研究に積極的に参加する
- 文理融合異分野連携、国際連携教育・研究に取り組む
- 歯学生アジアネットワークを形成し、情報発信を行う

④ 質の保証を伴った大学間交流の枠組みの形成及び拡大に向けた具体的な取組について

(i) 事業計画全体の達成目標 (事業開始～2025年度まで)

- 学生交流プログラムの実施
- 日中・日韓・日泰・日尼歯学ダブルディグリープログラムの拡充
- 国際共同シンポジウムの定期的開催および国際共同研究の推進
- 日中韓泰日尼歯学ジョイントディグリー (JD) プログラムの設置を目指す
- 本事業により歯学国際共同教育プログラムをアジア全域に展開する (優秀な学生の受け入れが可能)
- 歯学・歯科医療のアジアスタンダード構築によりアジア型デンティストリーを確立する

(ii) 中間評価までの達成目標 (事業開始～2022年度まで)

- 学生交流プログラムの年間2回実施
- 国際共同シンポジウムの毎年1回開催
- 日中・日韓・日泰歯学ダブルディグリープログラムの実施
- 日尼歯学ダブルディグリープログラムの設置
- ダブルディグリープログラムにおけるQualifying Examination (QE)を導入
- 共同指導体制・修学状況の共有化を強化
- 学習成果・学習内容および修了証のデジタル化
- 文理融合異分野連携の確立
- 共同研究・研究者交流の推進
- Human Experience (HX)に主眼をおいたインターンシップ体験事業の確立

(大学名: 東北大学)

(タイプ B①: CAプラス)

⑤ 本事業計画において海外に留学する日本人学生数の推移【1ページ以内】

現状（2020年5月1日現在）※1

（単位：人）

19

(i) 日本人学生数の達成目標

単位：延べ人数

事業計画全体の達成目標（事業開始～2025年度まで）	90
中間評価までの達成目標（事業開始～2022年度まで）	30

(上記の内訳)

(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（事業計画全体、中間評価までの双方について）

単位：人

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
実際に渡航する学生	0	5	10	15	15	45
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	7	10	5	0	0	22
実渡航とオンライン受講を行う学生	3	5	5	5	5	23
合計人数	10	20	20	20	20	90

(a) 実渡航による交流

現在の新型コロナウイルス感染症流行の状況を踏まえ、実渡航による交流は2022年後半から実施し、新型コロナウイルス感染症流行状況を踏まえ、徐々に実渡航により交流学生の割合を増やしていき、2023年後半からは完全な実渡航による交流に置き換える。そのため、2021年の実渡航の学生は0で、中間評価まで5名の派遣を目標とする。その後、徐々に実渡航学生を増やしていき、2024年度からは年間15名の派遣を目標とする。

実渡航による交流は学部学生短期派遣プログラム（3ヶ月未満）、大学院生研究推進型派遣プログラム（セメスターベース学位取得型）を中心に行う。

4カ国6大学への派遣を予定しており、意欲のある学生の発掘および語学力の向上の観点からある程度の競争的環境下での学生派遣が望ましいという理由から、学部短期派遣プログラムでは1大学に2名ずつの派遣、大学院生研究推進型派遣プログラムは一地域に1名ずつの派遣が妥当と考えた。さらに、受入大学では、キャンパス・アジアプラスのスキームで全ての連携大学から学生を受け入れるため、きめ細かな指導ができ、確実にプログラムを実行するためには妥当の派遣人数である。

(b) オンライン交流

新型コロナウイルス感染症流行の状況を踏まえ、事業初年度は学部学生短期派遣プログラムの全てをオンラインで行い、大学院生研究推進型派遣プログラムの参加学生は次年度渡航のための事前プログラムをオンラインで行う。2022年度は学部学生短期派遣プログラムの全てをオンラインで行い、大学院生研究推進型派遣プログラムの参加学生は実渡航にシフトする。2023年度は学部短期派遣プログラムの一部をオンラインで行い、一部の学生は実渡航による交流を行う。2024年度からは、全ての交流プログラムを実渡航およびハイブリッド形態に切り替える。

オンライン参加という手軽さから、参加希望者は多いと見込んでおり、目標達成は可能である。

(c) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流

ハイブリッド型の交流は、主にDDプログラム参加学生を対象とする。DDプログラムに入学後、渡航までの期間は、オンラインにより履修、プログレスレポートなどを行い、その後実渡航による研究遂行を行う。すでにDDプログラムを締結している中韓泰の連携校には2022年度まで、4名の派遣を計画する。インドネシアとはDDプログラムの設置検討段階であり、2021年度の設置を目標に掲げ、2022年度以後は、インドネシア大学へ国際共同教育の派遣を始める。きめ細かな指導の観点から1大学に1名派遣を基本とする。さらに、学部学生短期派遣プログラム通じ、大学院進学への動機付けを行うとともに、DDプログラム参加学生への経済支援、表彰制度を充実させる。

※1 現状は、事業の取組単位（全学、学部等）における2020年5月1日現在の人数。

(大学名： 東北大学)

(タイプ

B①：CAプラス)

⑥ 本事業計画において受け入れる外国人学生数の推移【1 ページ以内】

現状（2020年5月1日現在）※1

（単位：人）

101

(i) 外国人学生数の達成目標

単位：延べ人数

事業計画全体の達成目標（事業開始～2025年度まで）	90
中間評価までの達成目標（事業開始～2022年度まで）	30

(上記の内訳)

(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（事業計画全体、中間評価までの双方について）

単位：人

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
実際に渡航する学生	0	8	10	15	15	48
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	7	8	5	0	0	20
実渡航とオンライン受講を行う学生	3	4	5	5	5	22
合計人数	10	20	20	20	20	90

(a) 実渡航による交流

新型コロナウイルス感染症流行により、2022年後半から実渡航による交流を開始し、徐々に実渡航により交流学生の割合を増やしていき、2023年後半からは完全な実渡航による交流に置き換える。そのため、2021年の実渡航の学生は0で、中間評価まで8名の受け入れを目標とする。その後、徐々に実渡航学生を増やしていき、2024年度からは年間15名の受け入れを目標とする。

学部学生短期受入プログラム（3ヶ月未満）、大学院生研究推進型受入プログラム（セメスターベース学位取得型）を実渡航にて行う。短期受入プログラムでは可能な限り優秀な留学生の受け入れを目指しており、さらに、インターンシップ、体験型学習や臨床スキルプログラムなどの実施も計画しており、12名程度の少人数がきめ細かな指導ができ、確実にプログラムを実行できるため、この人数に決めている。大学院生研究推進型受入プログラムでも確実な研究指導の観点から3名程度の受入が妥当であると考えた。東北大学大学院歯学研究科は海外から多数の留学生を受け入れており、2019年度は外国人留学生を計112名受け入れている。また、コロナ感染症流行により、国際往来が難しくなった2020年度においても、短期受入プログラムのオンライン化・バーチャル化を推進し、年間計97名の受入実績を誇る。これらの交流事業の実施経験から、本事業の受入人数はプログラムが円滑に実施できる人数に設定した。

(b) オンライン交流

新型コロナウイルス感染症流行の状況を踏まえ、事業初年度は学部学生短期受入プログラムの全てをオンラインで行い、大学院生研究推進型受入プログラムの参加学生は次年度渡航のための事前プログラム、オリエンテーションをオンラインで行う。2022年度は学部学生短期受入プログラムの全てをオンラインで行い、大学院生研究推進型受入プログラムの参加学生は実渡航にシフトする。2023年度は学部短期受入プログラムの一部をオンラインで行い、一部の学生は実渡航による交流を行う。2024年度からは、全ての交流プログラムを実渡航およびハイブリット形態に切り替える。渡航が必要ないオンラインプログラムは、学生への負担も少なく、参加希望者は多いと見込んでおり、目標達成は可能である。

(c) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流

ハイブリット型の交流は、主にDDプログラム参加学生を対象とする。DDプログラムに入学後、渡航までのオンライン履修、実渡航による研究遂行、帰国後のオンラインによる研究総括、学位審査というハイブリット型を計画する。すでにDDプログラムを締結、実施している中韓泰の連携校とは安定的な学生受入が見込まれる。インドネシアとはDDプログラムの設置検討段階であり、2022年度以後は、インドネシア大学へ国際共同教育の受入を始める。きめ細かな指導の観点から1大学に1名派遣を基本とする。さらに、学部学生短期受入プログラム通じ、大学院進学への動機付け、優秀な留学生の発掘を行う。

※1 現状は、事業の取組単位（全学、学部等）における2020年5月1日現在の人数。

（大学名： 東北大学

）

（タイプ

B①：CAプラス）

⑦ 交流学生数について（2021年度は事業開始以後の人数）

（単位：人）

（イ）本事業で計画している交流学生数

中国側大学	韓国側大学	ASEAN側大学
30	30	30

（イ）－1：プログラム全体の派遣・受入交流学生数

各年度の派遣及び受入合計人数 （交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	10	10	20	20	20	20	20	20	20	20	90	90
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	5	8	10	10	15	15	15	15	45	48
自国にて国際教育・交流プログラム をオンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	7	7	10	8	5	5	0	0	0	0	22	20
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	3	3	5	4	5	5	5	5	5	5	23	22

（イ）－2：日中韓の三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別 内訳

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数		8	8	17	16	12	12	12	12	12	12	61	60
交流相手国 中国	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライ ン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブ リッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 韓国	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライ ン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブ リッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライ ン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブ リッド	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1
交流相手国 中国 及び 韓国	実渡航	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	1	2
	オンライ ン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブ リッド	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0	3	2
交流相手国 中国 及び ASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライ ン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブ リッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 韓国 及び ASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライ ン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブ リッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 中国、 韓国 及び ASEAN	実渡航	0	0	3	4	7	7	12	12	12	12	34	35
	オンライ ン	7	7	10	8	5	5	0	0	0	0	22	20
	ハイブ リッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自己負担または大学負担等による交流学生数		2	2	3	4	8	8	8	8	8	8	29	30
	実渡航	0	0	1	2	3	3	3	3	3	3	10	11
	オンライ ン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブ リッド	2	2	2	2	5	5	5	5	5	5	19	19

（大学名： 東北大学 ）

（タイプ B①：CAプラス）

(ii) 国内大学及び交流プログラムごとの交流学生数

交流形態	①	単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	実渡航
	②	単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	B	オンライン
	③	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	C	ハイブリッド
	④	上記以外の交流期間30日未満の交流		
	⑤	上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		
	⑥	上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		

1. 【代表申請大学】

大学名 東北大学

交流プログラム名 (相手大学名)	交流 方向	交流 形態	2021年度			2022年度			2023年度			2024年度			2025年度			合計
			A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	
CAMPUS Asia Plus短期交流プログラム (中韓 泰尼)	派遣	⑤		5			10		7	5		12			12			51
CAMPUS Asia Plus短期交流プログラム (中韓 泰尼)	受入	⑤		5			8		7	5		12			12			49
共同研究推進型大学院生交流プログラム (タ イ・中国)	派遣	⑥		2	1	3		1			1	3						11
共同研究推進型大学院生交流プログラム (イ ンドネシア・韓国)	受入	⑥		2		4						3						9
共同研究推進型大学院生交流プログラム (イ ンドネシア・韓国)	派遣	⑥				2		2	3		1				3			11
共同研究推進型大学院生交流プログラム (タ イ・中国)	受入	⑥				4			3						3			10
東北大学ー四川大学ダブルディグリープロ グラム	派遣	③			1						1			1				3
東北大学ー四川大学ダブルディグリープロ グラム	受入	③			2			1			1			1				5
東北大学ーソウル大学ダブルディグリープロ グラム	派遣	③			1						1			1				3
東北大学ーソウル大学ダブルディグリープロ グラム	受入	③			1						1			1				3
東北大学ー北京大学ダブルディグリープロ グラム	派遣	③						1						1			1	3
東北大学ー北京大学ダブルディグリープロ グラム	受入	③						1			1						1	3
東北大学ー延世大学ダブルディグリープロ グラム	派遣	③						1						1			1	3
東北大学ー延世大学ダブルディグリープロ グラム	受入	③						1			1			1				3
東北大学ーチュロンコン大学ダブルディ グリープログラム	派遣	③									1							1
東北大学ーチュロンコン大学ダブルディ グリープログラム	受入	③						1						1			1	3
東北大学ーインドネシア大学ダブルディ グリープログラム	派遣	③												1				1
東北大学ーインドネシア大学ダブルディ グリープログラム	受入	③									1			1				2
日中韓泰尼歯学ダブルディグリープログラ ム	派遣	③															3	3
日中韓泰尼歯学ダブルディグリープログラ ム	受入	③															3	3

2. 【国内連携大学等】

大学名

交流プログラム名 (相手大学名)	交流 方向	交流 形態	2021年度			2022年度			2023年度			2024年度			2025年度			合計
			A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	
	派遣																	0
	受入																	0
	派遣																	0
	受入																	0

(iii) 本事業で計画している交流学生数（派遣・受入別 各内訳の集計）

【日本人学生の派遣】		2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	合計
年度別合計人数		10	20	20	20	20	90
【交流形態別 内訳】							
①	単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0
②	単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0
③	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	2	2	3	5	5	17
	実渡航	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	2	2	3	5	5	17
④	上記以外の交流期間30日未満の交流	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0
⑤	上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	5	10	12	12	12	51
	実渡航	0	0	7	12	12	31
	オンライン	5	10	5	0	0	20
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0
⑥	上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	3	8	5	3	3	22
	実渡航	0	5	3	3	3	14
	オンライン	2	0	0	0	0	2
	ハイブリッド	1	3	2	0	0	6

(大学名： 東北大学) (タイプ B①：CAプラス)

【外国人学生の受入】		2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	合計
年度別合計人数		10	20	20	20	20	90
【交流形態別 内訳】							
① 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流		0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0
② 単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0
③ 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流		3	4	5	5	5	22
	実渡航	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	3	4	5	5	5	22
④ 上記以外の交流期間30日未満の交流		0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0
⑤ 上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		5	8	12	12	12	49
	実渡航	0	0	7	12	12	31
	オンライン	5	8	5	0	0	18
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0
⑥ 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		2	8	3	3	3	19
	実渡航	0	8	3	3	3	17
	オンライン	2	0	0	0	0	2
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0

(大学名： 東北大学) (タイプ B①：CAプラス)

(iv) 派遣・受入別 交流プログラム学生数の詳細

①日本人学生の派遣 (日本⇒中国、韓国、ASEAN)【計画】

年度	交流期間		派遣元大学	派遣先大学	派遣相手国	交流内容 (交流プログラム名等)	交流形態	交流学生数	(内訳)		
									実渡航	オンライン	ハイブリッド
2021	2022.1	～	2022.2	東北大学	中国・韓国・タイ	CAMPUS Asia Plus短期交流プログラム	⑤：上記以外の交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	5		5	
2021	2021.12	～	2022.3	東北大学	中国・タイ	共同研究推進型大学院生交流プログラム	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	3		2	1
2021	2021.11	～	2022.10	東北大学	中国	東北大学—四川大学ダブルディグリープログラム	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
2021	2022.1	～	2022.12	東北大学	韓国	東北大学—ソウル大学ダブルディグリープログラム	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
2022	2022.8	～	2022.9	東北大学	中国・韓国・インドネシア	CAMPUS Asia Plus短期交流プログラム	⑤：上記以外の交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	10		10	
2022	2022.10	～	2023.3	東北大学	中国・タイ	共同研究推進型大学院生交流プログラム	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	4	3		1
2022	2022.10	～	2023.3	東北大学	韓国・インドネシア	共同研究推進型大学院生交流プログラム	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	4	2		2
2022	2022.9	～	2023.8	東北大学	中国	東北大学—北京大学ダブルディグリープログラム	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
2022	2022.5	～	2023.4	東北大学	韓国	東北大学—延世大学ダブルディグリープログラム	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
2023	2023.8	～	2023.9	東北大学	中国・韓国・タイ	CAMPUS Asia Plus短期交流プログラム	⑤：上記以外の交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	12	7	5	
2023	2023.10	～	2024.3	東北大学	中国・韓国・タイ・インドネシア	共同研究推進型大学院生交流プログラム	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	5	3		2
2023	2023.9	～	2024.8	東北大学	中国	東北大学—四川大学ダブルディグリープログラム	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
2023	2023.5	～	2024.4	東北大学	韓国	東北大学—ソウル大学ダブルディグリープログラム	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
2023	2023.8	～	2024.7	東北大学	タイ	東北大学—チュラロンコン大学ダブルディグリープログラム	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
2024	2024.8	～	2024.9	東北大学	中国・韓国・タイ・インドネシア	CAMPUS Asia Plus短期交流プログラム	⑤：上記以外の交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	12	12		
2024	2024.10	～	2025.3	東北大学	中国・タイ	共同研究推進型大学院生交流プログラム	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	3	3		
2024	2024.9	～	2025.8	東北大学	中国・韓国・インドネシア	ダブルディグリープログラム	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	5			5
2025	2025.8	～	2025.9	東北大学	中国・韓国・タイ・インドネシア	CAMPUS Asia Plus短期交流プログラム	⑤：上記以外の交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	12	12		
2025	2025.10	～	2026.3	東北大学	韓国・インドネシア	共同研究推進型大学院生交流プログラム	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	3	3		
2025	2024.9	～	2025.8	東北大学	中国・韓国・タイ・インドネシア	ダブルディグリープログラム	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	5			5

②中国、韓国、ASEAN⇒日本【計画】

年度	交流期間		派遣元大学	派遣相手国	派遣先大学	交流内容 (交流プログラム名等)	交流形態	交流学生数	(内訳)		
									実渡航	オンライン	ハイブリッド
2021	2022.1	～	2022.2	中国・韓国・タイ	東北大学	CAMPUS Asia Plus短期交流プログラム	⑤：上記以外の交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	5		5	
2021	2021.12	～	2022.3	韓国・インドネシア	東北大学	共同研究推進型大学院生交流プログラム	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	2		2	
2021	2021.11	～	2022.10	中国	東北大学	東北大学—四川大学ダブルディグリープログラム	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	2			2
2021	2022.1	～	2022.12	韓国	東北大学	東北大学—ソウル大学ダブルディグリープログラム	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
2022	2022.8	～	2022.9	中国・韓国・インドネシア	東北大学	CAMPUS Asia Plus短期交流プログラム	⑤：上記以外の交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	8		8	
2022	2022.10	～	2023.3	中国・タイ	東北大学	共同研究推進型大学院生交流プログラム	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	4	4		
2022	2022.10	～	2023.3	韓国・インドネシア	東北大学	共同研究推進型大学院生交流プログラム	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	4	4		
2022	2022.10	～	2023.9	中国	東北大学	東北大学—北京大学ダブルディグリープログラム	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
2022	2022.10	～	2023.9	中国	東北大学	東北大学—四川大学ダブルディグリープログラム	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
2022	2022.5	～	2023.4	韓国	東北大学	東北大学—延世大学ダブルディグリープログラム	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
2022	2022.8	～	2023.7	タイ	東北大学	東北大学—チュラロンコン大学ダブルディグリープログラム	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
2023	2023.8	～	2023.9	中国・韓国・タイ	東北大学	CAMPUS Asia Plus短期交流プログラム	⑤：上記以外の交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	12	7	5	
2023	2023.10	～	2024.3	中国・タイ	東北大学	共同研究推進型大学院生交流プログラム	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	3	3		
2023	2023.10	～	2024.9	中国	東北大学	東北大学—北京大学ダブルディグリープログラム	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
2023	2023.10	～	2024.9	中国	東北大学	東北大学—四川大学ダブルディグリープログラム	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
2023	2023.5	～	2024.4	韓国	東北大学	東北大学—ソウル大学ダブルディグリープログラム	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
2023	2023.5	～	2024.4	韓国	東北大学	東北大学—延世大学ダブルディグリープログラム	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
2023	2023.8	～	2024.7	インドネシア	東北大学	東北大学—チュラロンコン大学ダブルディグリープログラム	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1			1
2024	2024.8	～	2024.9	中国・韓国・タイ・インドネシア	東北大学	CAMPUS Asia Plus短期交流プログラム	⑤：上記以外の交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	12	12		
2024	2024.10	～	2025.3	韓国・インドネシア	東北大学	共同研究推進型大学院生交流プログラム	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	3	3		
2024	2024.10	～	2025.9	中国・韓国・タイ・インドネシア	東北大学	ダブルディグリープログラム	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	5			5
2025	2025.8	～	2025.9	中国・韓国・タイ・インドネシア	東北大学	CAMPUS Asia Plus短期交流プログラム	⑤：上記以外の交流期間 30日以上3ヶ月未満の交流	12	12		
2025	2025.10	～	2026.3	中国・タイ	東北大学	共同研究推進型大学院生交流プログラム	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	3	3		
2025	2024.9	～	2025.8	中国・韓国・タイ・インドネシア	東北大学	ダブルディグリープログラム	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	5			5

(大学名：

東北大学)

(タイプ

B①：CAパス

)

(v) 宿舍の提供について

宿舍（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等）を提供予定の学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	3	3	10	12	15	15	20	20	20	20	68	70

(vi) 同窓会ネットワークへの参加者数について ※タイプA①・A②のみ

第2モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
						0

【参加者を増加させるための取組】

(vii) 任意指標 ※タイプA②・B②のみ

※第2モードまでの実績と比較して発展的な内容にするために必要な任意指標を適宜設定してください

【現状分析及び目標設定】

(設定指標)

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
(指標1)						0
(指標2)						0
(指標3)						0
(指標4)						0
(指標5)						0

【計画内容】

⑧ 海外相手大学との単位互換について

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

単位互換を実施する 海外相手大学数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6	29	29

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名： 東北大学 】

相手大学名		2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	合計
北京大学 四川大学	認定者数	1	1	1	2	2	7
	認定単位数	10	10	10	20	20	70
ソウル大学校 延世大学校	認定者数	1	1	1	2	2	7
	認定単位数	18	18	18	36	36	126
チュラロンコーン大学 インドネシア大学	認定者数	0	0	1	1	1	3
	認定単位数	0	0	10	10	10	30
年度別認定者数合計		2	2	3	5	5	17
年度別認定単位数合計		28	28	38	66	66	226

2. 国内連携大学 【大学名： 】

相手大学名		2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	合計
	認定者数						0
	認定単位数						0
	認定者数						0
	認定単位数						0
	認定者数						0
	認定単位数						0
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0	0

(大学名： 東北大学)

(タイプ B①：CAプラス)

外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備 【①～③合わせて2ページ以内】

① 日本人学生の派遣のための環境整備

【実績・準備状況】

連携予定の中国、韓国およびタイの大学とは大学院共同教育プログラム（ダブルディグリープログラム）および単位互換制度が完備され、学部短期派遣プログラムを実施してきており、連携先で東北大学との連携担当者、コーディネーターを配置済みである。また、担当部門との連携体制も構築済みで、履修支援、単位認定などのサポートが可能である。さらに定期的に共同シンポジウム、国際共同研究、打ち合わせを行っており、日本人学生支援、サポート、研究指導体制は整っている。インドネシア大学とは大学院共同教育プログラム（DD プログラム）の協議を始めており、2021 年度中の設置を予定している。さらに、アカデミックカレンダーの相違を考慮し、大学院共同教育プログラムは 4 月および 10 月の受け入れを可能とし、短期派遣プログラムは、派遣校での履修に影響及ぼさないよう、夏休み期間中を中心に行う。2020 年度からオンラインによる国際交流プログラムも構築している。

また、東北大学では日本人学生海外派遣前後において、プログラム詳細、派遣国事情、安全危機管理などに関する派遣前研修プログラムを設置している。さらに、海外留学生安全対策協議会（JCSOS）の緊急事故支援システムに加入済みであり、海外派遣時の健康相談、安全危機管理、事故対応を徹底している。また、海外協定校との連携を綿密にし、参加学生へのプログラム詳細、宿泊施設、渡航、ビザ申請、現地情報等について、情報提供を行うと共に、派遣先での滞在コストを極力抑え、安価で安全な宿泊施設を提供できる体制が整っており、大学内緊急連絡網および海外連携校との緊急連絡網の構築が済んでいる。

【計画内容】

➤ 危機管理システムの強化

教務係と国際連携推進部門の連携の下、緊急連絡網を強化し、危機管理マニュアルを拡充する。

➤ 国際連携推進部門機能充実による海外派遣前後における研修、フォローアップの徹底

担当教職員の採用拡充によりサポート機能を強化する。

➤ 現地連携担当者の確保

➤ ニューノーマルに対応できるオンライン教育プラットフォームの強化

➤ 派遣先での口腔保健行政でのインターンシッププログラムを構築する。

➤ グローバルラーニングセンターの支援による語学研修制度の充実

海外派遣前後における語学研修を徹底する。

➤ プログラム参加者によるネットワーク構築（情報共有・情報発信）

参加者により構築するネットワークにより、情報発信と共有を強化する。

② 外国人学生の受入のための環境整備

【実績・準備状況】

東北大学は留学生受入を含む国際交流・連携に積極的に取り組んでいる。本学歯学研究科では、既に日中韓の連携教育システムは構築されており、また ASEAN への展開も進行中であり、本プログラムの実現可能性は極めて高い状況にある。2011 年に研究科内に国際交流事業の統括、留学生サポートを行う国際連携推進部門を設置し、研究科教務係、東北大学留学生課、国際交流サポート室、グローバルラーニングセンターとの連携により留学生の受入支援を行っており、外国人学生の受入のための環境は以下のように整備されている。

➤ 歯学研究科で中国、韓国、タイの複数の大学と DD プログラムの設置が完了しており、大学院教育における単位互換制度が完備されている。

➤ 本事業で留学生の学籍管理は研究科教務係で一括して行い、国際連携推進部門と連携し、すでに構築済みの留学生緊急連絡網を拡充し、災害時安否確認、緊急連絡体制を強化する。

➤ 研究科内に設置済みの国際連携推進部門は、英語、中国語、韓国語、タイ語、日本語など多言語対応の教員、職員を配置しており、留学生の来日前からのプログラムの周知、募集、選抜、ビザ申請、住まいの斡旋、来日後の学業、生活、就職等、多方面のワンストップ・サポートを行っている。

➤ 歯学研究科では医療系留学生向け星陵日本語クラスを開設し、さらに東北大学グローバルラーニングセンターと連携し、留学生向け日本語教育、日本人学生向け英語教育を含む語学教育サポートを行っている。さらに、外国人留学生対象チューター制度が研究科内に整備済み。

➤ 2014 年から研究科内に国際交流事業のサポーターとなるグローバルアンバサダー制度を導入し、今

現在教員、大学院生および学部学生を含む 15 名のグローバルアンバサダー・ジュニアグローバルアンバサダーを採用し、留学生受け入れにおけるサポート体制を強化した。

- ▶ DD プログラム学生指導は研究科教員 3～4 名と海外連携科教員 1～2 名からなる共同指導体制が導入済みで、本事業にも同様に適用する。
- ▶ オンラインによるバーチャル交流プログラムを 2020 年度に構築し、受入を開始している。
- ▶ 歯学研究科で英語のみで学位取得可能に大学院コースが整備され、募集要項、シラバス英語化が既に対応済みである。また、研究科 HP の多言語化も完了し、HP および SNS などによる情報発信を行うとともに、プログラム募集の周知を行う。さらに、連携校の関係部門との綿密な連携によりプログラムの運営を行う。
- ▶ 東北大学総長特別奨学金、若手研究者育成プログラム、RA 制度などによる経済的サポートを行う。
- ▶ 宿舍支援：東北大学ユニバーシティハウス、国際交流会館など国内最大規模の国際混住型学生寄宿舍が完備しており、さらに留学生住宅総合保証制度も導入済みである。
- ▶ 安全保障・健康サポート：東北大学保健管理センターが学生の健康管理・相談を行う。また、学生には学研災、医学賠など保険制度への加入を必須とし、安全保障に努める。

【計画内容】

- ▶ グローバルアンバサダー・ジュニアグローバルアンバサダー増員によるサポート体制の強化
外国人留学生の来日後の日本文化の習得、生活面でサポートを行う。
- ▶ チューター制度を充実させ、きめ細かなサポートを可能とする。
オンラインによる「事前体験プログラム」や「フォローアッププログラム」の設置、TUDA (Tohoku University Alumni Association) の設立を通じ、来日前からの勉学、生活、語学など多方面でのサポートを行う。
- ▶ リエゾンセンター国際連携推進部門の機能充実
専任教員、事務職員を採用し、プログラムマネジメント力を強化する
- ▶ 研究指導体制の充実
学生に対する共同指導体制を強化し、研究指導リエゾン会議を定期実施する。
- ▶ 歯科企業、保健行政機関での体験活動インターンシッププログラムの提供
- ▶ ハイブリット型国際交流・国際共同教育システムの強化
学生派遣・受入前後における危機管理教育、フォローアップ、専門科目のオンライン教育を実施
- ▶ 奨学金制度の充実
競争的資金獲得、企業との連携により、学生への奨学金制度を充実させ、サステナブルな支援を可能とする。

③ 関係大学間の連絡体制の整備

【実績・準備状況】

北京大学、四川大学、ソウル大学、延世大学、チュラロンコーン大学とはテレビ会議システム、メール、電話をベースとした連携体制が整っている。さらに、連携大学間毎に緊急連絡網を整備していて、緊急時の対応、プログラム実施における連携体制が整備されている。また、定期的にリエゾン会議を実施することにより、プログラムの問題点をまとめ、制度改善・改良およびプログラムのフォローアップを行うことができる。東北大学は海外に事務所を設置しており、中国代表事務所、タイ代表事務所、韓国リエゾンオフィスを有効活用し、プログラムの宣伝、入試案内、出願希望学生への対応等を行うことができる。

【計画内容】

- ▶ インドネシア大学校とのテレビ会議システムを新規導入し、日中韓泰尼の大学校間のリアルタイムでの連携を可能とする。
- ▶ 東北大学-北京大学-四川大学-ソウル大学校-延世大学校-チュラロンコーン大学-インドネシア大学により形成する日中韓泰尼コンソーシアムにおける総合危機管理システムの構築を行う
- ▶ プログラム参加者・修了者による Asia Dental Leader's League を構築し、情報発信・情報共有を可能とする
- ▶ 国際共同シンポジウムの定期開催による継続的サポート、事業のフォローアップを強化する。
- ▶ 海外リエゾンオフィスの設置を推進し、事業へのサポート体制を強化する。

事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及 【①～②合わせて2ページ以内】

① 事業の実施に伴う大学の国際化

【実績・準備状況】

東北大学は「世界から尊敬される三十傑大学」を目標に掲げ、東北大学を中核とする「知の国際共同体」の形成や、卓越した教育研究を行う世界に伍する総合研究大学への飛躍を進めてきた。歯学研究科においても、この全学方針のもと、本研究科が提唱する次代の歯学概念「インターフェイス口腔健康科学」に基づいた異分野融合型・国際連携型の教育研究の推進によるアジア型デンティストリーの確立・普及と、これに貢献し得る「マルチモーダルなグローバルリーダー」の養成を目指し、単なる歯科医師の養成にとどまらない国際人材の育成を進めている。このために、これまで学部短期受入・派遣プログラム、ダブルディグリープログラムなどの設置、海外大学との学術交流協定の締結、大学院課程の英語化、事務書類の英文化などに積極的に取り組み、国際競争力や国際通用性の獲得に一定の成果を上げてきた。本事業では、日中韓泰尼国際共同教育コンソーシアムを構築し、組織的・継続的な教育連携を実現する。これにより、これまでの二大学間連携からマルチな連携関係へと転換を図り、本学未設置の JD プログラムの実現に向けて大学間連携を強化する。

また、国際化支援体制としては、東北大学グローバルラーニングセンターを中心とした全学サポート支援体制を基本に、部局にも国際連携推進部門の設置をしているところである。本事業では、歯学研究科の国際化統括部署である歯学イノベーションリエゾンセンター国際連携推進部門を筆頭として、研究科内関連部署、全学・連携部局関連部署と全学横断的な支援体制を構築し、緊密な連携のもと、運営することとしている。

【計画内容】

➤ アジア型デンティストリーコンソーシアムの形成によるマルチな連携関係の構築

本事業の目玉であるアジア型デンティストリーコンソーシアムを設立し、アジア型デンティストリーに基づく国際共同教育をアジア全域に拡大・展開し、アジア歯学ジョイント・ディグリー(JD)プログラムの実現に向けて大学間連携を強化する。

➤ Asia Dental Leader's League の構築および世界への人材輩出

同窓生組織の設立によりプログラム修了後も国際ネットワークを維持する。また、本事業により育成した日本人研究者・教育者を海外研究機関・大学へ人材輸出し、歯学系教育機関・医療機関でのキャリア獲得に繋げる。

➤ 成績証明書、履修証明等におけるデジタル化推進

既に導入している学修ポートフォリオ・システムをさらに活用する。これにより学生本人がどこにいても自分の成績や履修内容を確認するができ、自己研鑽の動機付けに繋がるほか、指導教員間の学修状況共有化が可能となり、共同指導体制の強化および質の高い国際共同教育の提供が可能となる。これらの仕組みを土台に、成績証明書や履修証明書のデジタル化を推進する。

➤ 国際連携推進部門の横断的連携の推進と国際人材の獲得による機能充実

全学・部局関連部署とも連携した教員 FD の定期的開催するとともに、国際性を具備した、国際的視野を有する専任職員、事務職員の採用を促進する。

➤ サバティカル外国人教員雇用・人材交流の促進

サバティカル制度を活用した外国人教員・研究者を国際公募による採用を強化し、大学のグローバル化に貢献する。

上記を通じて創造的で活力ある研究者・高度専門人材を育成する大学院教育を展開し、東北大学の戦略ビジョン『東北大学ビジョン 2030 (2018 年 11 月)』に掲げる「世界から学生を惹きつける最先端の国際プログラムの開発・提供」、「オープンでボーダレスなキャンパスにおける国際共修展開」、「卓越した研究を基盤とした国際共同研究の深化」に貢献する。これは全学的な国際共修キャンパスの創造に資するものであり、歯学分野のみならず、高度専門人材育成教育のグローバル化および大学の国際化に大きく貢献するものである。

② 国内外への情報提供の方法・体制、成果の普及

【実績・準備状況】

歯学研究科では、研究科基本情報（学生数、卒後進路状況、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー、研究成果、外部資金獲得状況など）、教育、研究、臨床に於ける取り組み、国際交流事業およびその成果は、研究科ニュースレター、研究科ホームページによる学内、国内発信を行っている。さらに、ホームページの多言語化（英語、日本語、中国語、韓国語）が済み、各種ソーシャルネットワークサービス SNS（Facebook, Twitter, YouTube, 微博など）と併用し、研究科の取り組みを国外への情報発信も行っている。

また、歯学研究科では四川大学と海外リエゾンオフィスを設立し、各種国際交流プログラムの情報発信、実施サポートを行ってきており、インドネシア大学、チュラロンコーン大学、ソウル大学、延世大学、北京大学に海外リエゾンオフィスの設置に向けて、協議を始めた。さらに、歯学研究科では研究成果について、医工学研究科、金属材料研究所および東京工業大学など学内外異分野連携国際シンポジウムのみならず、北京大学、四川大学、香港大学、チュラロンコーン大学、シドニー大学など国際連携学術シンポジウムも定期的に行い、研究成果の発信・共有および共同研究・教育の促進に努めている。

【計画内容】

➤ 国際会議・シンポジウムおよび国際雑誌への論文発表を通じ、国内外への情報発信を行う

高水準国際共同研究、論文数、被引用数の向上を促進

➤ 成果発表会、報告会の定期開催

➤ 年度毎の実績報告書作成

多言語版（英語、日本語、中国語、韓国語、タイ語、インドネシア語）の年度実績報告、事業成果報告書を作成し、国内外への情報提供を行う

➤ 専用ホームページ開設およびソーシャルネットワークサービス（SNS）の充実化

事業専用ホームページの開設、Facebook、Weibo、Instagram、YouTube などでの卒業率、学位授与数、外国人教員数、論文数、被引用数、協定締結大学、プログラム詳細、留学生サポート体制などに関する情報を多言語化し、海外発信を強化する。

➤ ニュースレターの英文化・デジタル化

研究科ニュースレターを英文化し、海外連携校にデジタル配信を定期的に行い、プログラムの成果や情報発信を強化する。

➤ 海外リエゾンオフィスの機能強化

歯学研究科海外リエゾンオフィスを連携校に設立し、情報発信、プログラム宣伝、学生のリクルート・サポートなどの機能を強化する。

交流プログラムを実施する海外相手大学について 【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	北京大学 (中華人民共和国)
① 交流実績 (交流の背景)	
東北大学は北京大学と大学間学術交流協定、学生交流協定を 1999 年 11 月 10 日に締結して以来、各種交流プログラムを多数実施した。歯学研究科は北京大学口腔医学院と 2009 年から部局間包括的交流が始まり研究者派遣、受け入れ、国際共同研究の推進、招待講演などで連携を強化してきた。2011 年からは世界初の歯学ダブルディグリープログラムの設置に向けて協議を始め、<u>2013 年にはダブルディグリープログラムに関する協定を締結した</u>。これにより、両校間で大学院教育における<u>短期相互認定、単位互換制度が整備</u>され、学生交流のための体制を強化した。2013 年には相互理解および共同研究推進を目的に、<u>東北-北京デンタルシンポジウムを実施した</u>。その後、<u>ダブルディグリープログラム</u>学生の受け入れを目的とした共同研究をスタートさせ、2014 年から学生の受け入れをはじめた。 また、2013 年から自然科学系短期共同研究留学生受入プログラムによる大学院生の受入をはじめ、2019 年度まで述べ 12 名の受入を実施した。さらに、2014 年度から 2020 年度には科学技術振興機構の日本・アジア青少年サイエンス交流プログラム (さくらサイエンスプラン) に採択され、北京大学から歯学部学生 21 名を受け入れた。2015 年度には、学部学生向けの短期受入・派遣プログラムもスタートさせ、のべ 32 名の学部学生の受入・派遣を実施した。さらに、ダブルディグリープログラムによる派遣も 2015 年度からはじめ、東北大学学生の派遣を実験した。これらのプログラムの設置、運営するにあたり、北京大学、東北大学とともに、<u>専門部署を設置し、長年連携</u>しており、今回のプロジェクト設置においても、難なく進めることができる。 両校間では連携開始以来、学部長相互訪問を実施、講師招聘による招待講演の実施、歯学研究科が実施しているインターフェイス口腔健康科学事業での協力も積極的に行ってきた。2014 年からは、東北大学-北京大学-ソウル大学校三大学歯学部長の会合を含むリエゾン会議を定期的に行っており、今後の東アジアおよび東南アジア地域における包括的連携を強化、特に歯学教育・研究での連携推進を再確認できた。	
② 交流に向けた準備状況	
北京大学口腔医学院とは 2009 年から部局間包括的交流が始まり、学生交流、共同研究、大学院共同教育、共同シンポジウム開催など幅広い交流を積極的取り組んできた。 学部学生短期派遣・受入プログラムの実施にあたり、両校間では担当部署が確立されており、連携体制が整っている。ダブルディグリープログラムの実施においても、両校の担当部署が綿密な連携のもと、運営に携わっており、学生の選抜などは導入済みのテレビ会議システムを使用している。また、プログラム担当者間のリエゾン会議の実施、実務担当者間では定期的打ち合わせを行うことにより、プログラムのフォローアップ体制の強化に取り組んできた。 今までの両校間のプログラムを設置、運営するにあたり、北京大学、東北大学とともに、専門部署を設置し、長年連携しており、さらに、国際連携推進部門には中国語が堪能な教員を配置しており、今回のプロジェクト設置においても、難なく進めることができる。 2021 年にはキャンパスアジアプロジェクトにおける連携、歯学分野における東アジア・ASEAN の連携強化で合意し、学生短期交流、ダブルディグリープログラムの基軸とした大学院共同教育プログラムの強化、研究者・教員交流・共同研究推進で一致した。	

交流プログラムを実施する海外相手大学について 【相手大学ごとに①、②合わせて1 ページ以内】	
相手大学名 (国名)	四川大学 (中華人民共和国)
① 交流実績 (交流の背景)	
東北大学は四川大学と大学間学術交流協定、学生交流協定を 2018 年 6 月 26 日に締結し、各種交流プログラムを多数実施してきた。歯学研究科は東北大学で初めて四川大学と部局間交流を始めた部局で、2006 年から既に四川大学華西口腔医学院と部局間学術・学生交流協定を締結し、包括的交流が始まり研究者派遣、受け入れ、国際共同研究の推進、招待講演などで連携を強化してきた。2011 年からは世界初の歯学ダブルディグリープログラムの設置に向けて協議を始め、<u>2013 年にはダブルディグリープログラムに関する協定を締結した</u>。これにより、両校間で大学院教育における<u>短期相互認定、単位互換制度が整備され、学生交流のための体制を強化した</u>。2014 年には相互理解および共同研究推進を目的に、<u>東北-四川災害歯科国際シンポジウム</u>を実施し、2018 年には<u>東北-四川学術連携シンポジウム</u>を実施し、ダブルディグリープログラム学生の受け入れを目的とした共同研究をスタートさせた。2014 年からは DD コースの学生の受け入れをはじめ、毎年 2～3 名の学生を受け入れている。 また、2013 年から自然科学系短期共同研究留学生受入プログラムによる大学院生の受入をはじめ、2019 年度まで述べ 20 名近くの受入を実施した。さらに、2014 年度から 2020 年度には科学技術振興機構の日本・アジア青少年サイエンス交流プログラム (さくらサイエンスプラン) に採択され、北京大学から歯学部学生 21 名を受け入れた。2014 年度からは、学部学生向けの短期派遣プログラムもスタートさせ、のべ 7 名の学部学生を派遣した。これらのプログラムの設置、運営するにあたり、四川大学、東北大学とともに、<u>専門部署を設置し、長年連携</u>しており、今回のプロジェクト設置においても、難なく進めることができる。 両校間では連携開始以来、学部長相互訪問を実施、講師招聘による招待講演の実施、歯学研究科が実施しているインターフェイス口腔健康科学事業での協力も積極的に行ってきた。2014 年からは、東北大学-四川大学リエゾン会議を定期的に行っており、国際共同研究における連携強化、東アジアのみならず東南アジアを含めたアジア・太平洋地域における包括的連携推進を再確認できた。	
② 交流に向けた準備状況	
四川大学華西口腔医学院とは 2006 年から部局間包括的交流が始まり、学生交流、共同研究、大学院共同教育、共同シンポジウム開催など幅広い交流を積極的取り組んできた。 学部学生短期派遣・受入プログラムの実施にあたり、両校間では担当部署が確立されており、連携体制が整っている。ダブルディグリープログラムの実施においても、両校の担当部署が綿密な連携のもと、運営に携わっており、学生の選抜などは導入済みのテレビ会議システムを使用している。また、プログラム担当者間のリエゾン会議の実施、実務担当者間では定期的打ち合わせを行うことにより、プログラムのフォローアップ体制の強化に取り組んできた。 今までの両校間のプログラムを設置、運営するにあたり、四川大学、東北大学とともに、専門部署を設置し、長年連携しており、さらに、国際連携推進部門には中国語が堪能な教員を配置しており、今回のプロジェクト設置においても、難なく進めることができる。 2021 年には Tohoku University Dental Alumni Association China (TUDAC) の設立を計画しており、TUDAC 執行部中心メンバーは四川大学華西口腔医学院の教員が勤める予定で、本プログラムのサポート体制も強化できる。 2018 年からはアジア太平洋歯学教育協会 (ADEAP) おける東北大学-四川大学間の協力関係を確立し、四川大学が中国の代表校として、ADEAP で中心的役割を果たしている。2021 年にはキャンパスアジアプロジェクトにおける連携、歯学分野における東アジア・ASEAN の連携強化で合意し、学生短期交流、ダブルディグリープログラムの基軸とした大学院共同教育プログラムの強化、研究者・教員交流・共同研究推進で一致した。	

交流プログラムを実施する海外相手大学について 【相手大学ごとに①、②合わせて1 ページ以内】	
相手大学名 (国名)	ソウル大学校 (大韓民国)
① 交流実績 (交流の背景)	
ソウル大学校と東北大学の間では 1998 年 7 月 8 日に大学間学術交流および学生交流協定締結して以来、学生相互派遣、共同研究、研究者派遣、受け入れを進めてきた。本学歯学研究科とソウル大学校歯科大学との実質的な交流は 2009 年から始まっており、教員相互派遣、招待講演を始めとする交流を多岐にわたって行ってきた。2014 年には日中韓の間での相互理解と国際共同研究を推進する目的で、<u>東北大学、ソウル大学校および北京大学の主催による第一回日中韓デンタルシンポジウムを開催し、お互いの研究での取り組み、教育、臨床でのステータスの理解ができ、日中韓コンソーシアム形成のための土台作りができた。</u>また、学部学生交流事業も 2015 年度から始めており、今までのべ 9 名の交流を行った。 2015 年度からは、東北大学とソウル大学校間で歯学博士課程<u>ダブルディグリープログラムの設置</u>に向けて協議を開始し、2016 年度にはダブルディグリープログラムに関する協定を締結し、<u>単位互換、単位相互認定が可能</u>となった。 これらの交渉、交流プログラムにおける実務的連携は<u>本学歯学研究科の国際連携推進部門</u>が担当し、<u>ソウル大学校歯科大学国際交流担当副学部長と連携体制を構築</u>して、本プロジェクト事前調整、実施などの実務も、これらの部署が担当して行う予定である。 両校間では連携開始以来、学部長相互訪問を実施、講師招聘による招待講演の実施、歯学研究科が実施しているインターフェイス口腔健康科学事業での協力も積極的に行ってきた。2014 年からは、東北大学-北京大学-ソウル大学校三大学歯学部長の会合を含むリエゾン会議を定期的に行っており、今後の東アジアおよび東南アジア地域における包括的連携を強化、特に歯学教育・研究での連携推進を再確認できた。	
② 交流に向けた準備状況	
東北大学大学院歯学研究科とソウル大学校歯科大学との部局間包括的連携は 2009 年から始まっており、学部学生交流、研究者交流など連携を推進、定期的開催した国際シンポジウムでは、ソウル大学校から学部長、講師を招聘し、共同研究における連携も強化してきた。2016 年にはダブルディグリープログラムを設置し、国際共同教育における環境整備が完成した。そのため、国際共同教育に関しては、担当部署間の連携はスムーズに行える状況である。今まで行ってきた学生・研究者の短期派遣・受入事業で構築した連携体制も本事業で活用できる。 これらの交渉、交流プログラムにおける実務的連携は本学歯学研究科の国際連携推進部門が担当し、ソウル大学校歯科大学国際交流担当副学部長と連携体制を構築して、さらに、国際連携推進部門には韓国語が堪能な教員を配置しており、本プロジェクト事前調整、実施になどの実務も、これらの部署が担当して行う予定である。 2021 年にはキャンパスアジアプロジェクトにおける連携、歯学分野における東アジア・ASEAN の連携強化で合意し、学生短期交流、ダブルディグリープログラムの基軸とした大学院共同教育プログラムの強化、研究者・教員交流・共同研究推進で一致した。	

交流プログラムを実施する海外相手大学について 【相手大学ごとに①、②合わせて1 ページ以内】	
相手大学名 (国名)	延世大学校 (大韓民国)
① 交流実績 (交流の背景)	
延世大学校と東北大学の間では2007年5月29日に大学間学術交流および学生交流協定締結して以来、学生相互派遣、共同研究、研究者派遣、受け入れを進めてきた。本学歯学研究科と延世大学校歯科大学との実質的な交流は2006年から始まっており、2016年には部局間学術交流・学生交流協定を締結し、教員相互派遣、招待講演を始めとする交流を多岐にわたって行ってきた。相互理解と国際共同研究を推進する目的で、2014年および2018年にそれぞれ延世大学校のJUNG教授とKIM学部長を招聘し、IOHSサマーセミナーで講演していただいた。 2018年度からは、東北大学と延世大学校間で歯学博士課程ダブルディグリープログラムの設置に向けて協議を開始し、2019年度にはダブルディグリープログラムに関する協定を締結し、<u>単位互換、単位相互認定が可能</u>となった。 これらの交渉、交流プログラムにおける実務的連携は<u>本学歯学研究科の国際連携推進部門</u>が担当し、<u>延世大学校歯科大学国際交流担当副学部長と連携体制を構築</u>して、本プロジェクト事前調整、実施などの実務も、これらの部署が担当して行う予定である。 両校間では連携開始以来、学部長相互訪問を実施、講師招聘による招待講演の実施、歯学研究科が実施しているインターフェイス口腔健康科学事業での協力も積極的に行ってきた。2018年からはアジア太平洋歯学教育協会(ADEAP)における東北大学―延世大学校間の協力関係を確立し、延世大学校が韓国の代表校として、歯学教育スタンダードの検討に中心的役割を果たしている。2016年からは、東北大学-延世大学校リエゾン会議を定期的に行っており、今後の東アジアおよび東南アジア地域における包括的連携を強化、特に歯学教育・研究での連携推進を再確認した。	
② 交流に向けた準備状況	
東北大学大学院歯学研究科と延世大学校歯科大学との部局間包括的連携は2016年から始まっており、研究者交流など連携を推進、国際共同教育プログラムの設置、延世大学校から学部長、講師を招聘し、共同研究における連携も強化してきた。2019年にはダブルディグリープログラムを設置し、国際共同教育における環境整備が完成した。そのため、国際共同教育に関しては、担当部署間の連携はスムーズに行える状況である。今まで行ってきた学生・研究者の短期派遣・受入事業で構築した連携体制も本事業で活用できる これらの交渉、交流プログラムにおける実務的連携は本学歯学研究科の国際連携推進部門が担当し、延世大学校歯科大学国際交流担当副学部長と連携体制を構築して、さらに、国際連携推進部門には韓国語が堪能な教員を配置しており、本プロジェクト事前調整、実施になどの実務も、これらの部署が担当して行う予定である。 2021年にはキャンパスアジアプロジェクトにおける連携、歯学分野における東アジア・ASEANの連携強化で合意し、学生短期交流、ダブルディグリープログラムの基軸とした大学院共同教育プログラムの強化、研究者・教員交流・共同研究推進で一致した。	

交流プログラムを実施する海外相手大学について 【相手大学ごとに①、②合わせて1 ページ以内】	
相手大学名 (国名)	チュラロンコーン大学 (タイ王国)
① 交流実績 (交流の背景)	
チュラロンコーン大学と東北大学の間では2011年2月3日に大学間学術交流および学生交流協定締結して以来、学生相互派遣、共同研究、研究者派遣、受け入れを進めてきた。本学歯学研究科とチュラロンコーン大学歯学部との実質的な交流は2014年から始まっており、2014年12月には部局間学術交流・学生交流協定を締結し、学生派遣・受入、教員相互派遣、招待講演、国際共同シンポジウムを始めとする交流を多岐にわたって行ってきた。相互理解と国際共同研究を推進する目的で、2015年にはTohoku-Chulalongkorn Dental Symposiumをバンコクで開催し、国際共同研究・教育の基盤作りを始めた。 2016年度からは、東北大学とチュラロンコーン大学間で歯学博士課程ダブルディグリープログラムの設置に向けて協議を開始し、2020年度にはダブルディグリープログラムに関する協定を締結し、<u>単位互換、単位相互認定が可能となった。</u> これらの交渉、交流プログラムにおける実務的連携は<u>本学歯学研究科の国際連携推進部門</u>が担当し、<u>チュラロンコーン大学歯学部国際交流サポート室、および国際交流担当副学部長と連携体制を構築</u>して、さらに、国際連携推進部門にはタイ語が堪能な教員を配置しており、本プロジェクト事前調整、実施などの実務も、これらの部署が担当して行う予定である。 両校間では連携開始以来、学部長相互訪問を実施、講師招聘による招待講演の実施、歯学研究科が実施しているインターフェイス口腔健康科学事業での協力も積極的に行ってきた。2018年からはアジア太平洋歯学教育協会 (ADEAP) おける協力関係を確立し、コロナ禍における歯学教育ガイドラインの策定や、歯学教育スタンダードの検討で連携を行なっている。2015年からは、両校のリエゾン会議を定期的に行っており、今後のASEANにおける包括的連携を強化、特に歯学教育・研究での連携推進を再確認した。	
② 交流に向けた準備状況	
チュラロンコーン大学歯学部とは2014年から部局間包括的交流が始まり、学生交流、研究員受入、教員相互派遣、共同研究、大学院共同教育、共同シンポジウム開催など幅広い交流を積極的取組んできた。 学部学生短期派遣・受入プログラムの実施にあたり、両校間では担当部署が確立されており、連携体制が整っている。ダブルディグリープログラムの実施においても、両校の担当部署が綿密な連携のもと、運営に携わっており、学生の選抜などを行うためのテレビ会議システムを導入済みである。また、プログラム担当者間のリエゾン会議の実施、実務担当者間では定期的打ち合わせを行うことにより、プログラムのフォローアップ体制の強化に取り組んでいる。今までの両校間のプログラムを設置、運営するにあたり、チュラロンコーン大学、東北大学とともに、専門部署を設置し、長年連携しており、さらに、国際連携推進部門にはタイ語が堪能な教員を配置しており、今回のプロジェクト設置においても、難なく進めることができる。 2021年にはTohoku University Dental Alumni Association Thailand (TUDAT)の設立を計画しており、TUDAC 執行部中心メンバーはチュラロンコーン大学歯学部の教員が勤める予定で、本プログラムのサポート体制も強化できる。2018年からはアジア太平洋歯学教育協会 (ADEAP) おける東北大学—チュラロンコーン大学間の協力関係を確立し、アジア・太平洋地域における歯学教育スタンダードの検討において協力している。2021年にはキャンパスアジアプラスプロジェクトにおける連携、歯学分野における東アジア・ASEANの連携強化で合意し、学生短期交流、ダブルディグリープログラムの基軸とした大学院共同教育プログラムの強化、研究者・教員交流・共同研究推進で一致した。	

交流プログラムを実施する海外相手大学について 【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	インドネシア大学 (インドネシア共和国)
① 交流実績 (交流の背景)	
インドネシア大学と東北大学の間では2004年3月31日に大学間学術交流および学生交流協定締結して以来、学生相互派遣、共同研究、研究者派遣、受け入れを進めてきた。本学歯学研究科とインドネシア大学歯学部との実質的な交流は2018年から始まっており、招待講演、国際共同シンポジウムなどを中心的に交流を進めてきた。2018年度、東北大学、インドネシア大学などアジア・太平洋地域の歯科大学が中心メンバーとなり、アジア・太平洋歯学教育協会(ADEAP)を設立し、歯学教育における連携が可能となった。2020年には東北大学、インドネシア大学、チュラロンコーン大学、延世大学、四川大学などが協力し、コロナ禍における歯学教育ガイドラインを策定し、発表した。2020年からはアジア・太平洋地域の歯学教育スタンダードの検討で連携を行なっている。 2020年にはオンライン短期受入プログラムにインドネシア大学歯学部学生2名を受入、東アジア、ASEANの歯科大学の学生と交流を行なった。2021年には東北大学とインドネシア大学間で歯学博士課程ダブルディグリープログラムの設置に向けて協議を開始した。 これらの交渉、交流プログラムにおける実務的連携は本学歯学研究科の国際連携推進部門が担当し、インドネシア大学歯学部国際交流サポート室および学部長と連携体制を構築していて、本プロジェクト事前調整、実施などの実務も、これらの部署が担当して行う予定である。 2020年12月には、両校の担当者間で打ち合わせを行い、今後の東南アジア地域における包括的連携を強化、特に歯学教育・研究での連携推進を再確認した。	
② 交流に向けた準備状況	
インドネシア大学歯学部とは2018年から交流が始まり、学生交流、招待講演、共同シンポジウム開催など交流を積極的取り組んできた。 2020年度から始まった学部学生短期派遣・受入プログラムの実施にあたり、両校間では担当部署が確立されており、連携体制が整っている。歯学博士課程ダブルディグリープログラムについても、2021年度中の設置に向けて検討をしており、両校の担当部署が綿密な連携のもと、協議、運営に携わっている。また、プログラム担当者間のリエゾン会議の実施より、実務担当者間の定期的打ち合わせを可能とし、プログラムのフォローアップ体制の強化に取り組んで行く。 2021年1月にはTohoku University Dental Alumni Association Indonesia (TUDAI)が設立され、本プログラムのプロモーション、フォローアップなどにおけるサポート体制も強化できる。 2018年からはアジア太平洋歯学教育協会(ADEAP)における東北大学—インドネシア大学間の協力関係を確立し、アジア・太平洋地域における歯学教育スタンダードの検討において協力している。2021年にはキャンパスアジアプラスプロジェクトにおける連携、歯学分野における東アジア・ASEANの連携強化で合意し、学生短期交流、ダブルディグリープログラムの基軸とした大学院共同教育プログラムの強化、研究者・教員交流・共同研究推進で一致した。	

事業計画の実現性、事業の発展性 【①は1ページ以内、②、③、④は合わせて3ページ以内】

① 年度別実施計画

【2021 年度（申請時の準備状況も記載）】

中韓泰尼の大学とは大学間学術交流・学生交流協定が締結済みで、学部長および実務者レベルで本事業採択後の実施に向けた協議・準備を進めている。採択後、以下の事業を行う。

- オンラインにより中韓泰尼から学部学生計7名短期受入、同じ数の学生派遣を行う
- 共同研究推進型大学院生オンライン派遣：タイ2名、中国1名（博士論文に関する共同研究）
- 共同研究推進型大学院生オンライン受入：インドネシア1名（博士論文に関する共同研究）
- ダブルディグリープログラム受入：中国から2名受入
- キャンパス・アジアプラスデンタルシンポジウムを2022年2月初旬、オンラインで行う
- インドネシア大学とのダブルディグリープログラムを設置、プログラム協定締結
- 内部評価、中間評価を行う

【2022 年度】

- 学部学生12名を中韓泰尼に短期派遣、同時に中韓泰尼から12名の学部学生受入（オンライン）
- インドネシア大学からダブルディグリープログラム大学院生を受け入れ開始
- 中韓からダブルディグリープログラムの大学院生受入、本学から中韓に派遣
- 共同研究推進型大学院生派遣・受入（タイ・インドネシアの大学にそれぞれ6～12ヶ月滞在し、研究を行う、受入学生も本学で6～12ヶ月間、研究を遂行する）
- 研究者・教員の派遣を行い、国際共同研究を立案する
- 日中韓デンタルシンポジウム、日本-ASEAN デンタルシンポジウムを開催
- 内部評価、外部評価を行う

【2023 年度】

- 学部学生12名を中韓泰尼に短期派遣、同時に中韓泰尼から12名の学部学生受入（ハイブリッド）
- 中韓泰尼の連携校からダブルディグリープログラムの大学院生受入
- 東北大学からの連携校にダブルディグリープログラムの大学院生派遣
- キャンパス・アジアプラスデンタルシンポジウム
- 国際共同研究の実施、サバティカル教員派遣受入プログラムを設置
- リエゾン会議によりプログラムの問題点抽出、改善を行う内部評価、中間評価を行う

【2024 年度】

- 学部学生12名を中韓泰尼に短期派遣、同時に中韓泰尼から12名の学部学生受入
- 中韓泰尼の連携校からダブルディグリープログラムの大学院生受入
- 東北大学からの連携校にダブルディグリープログラムの大学院生派遣
- 日中韓デンタルシンポジウム、日本-ASEAN デンタルシンポジウムを開催
- 国際共同研究実施、サバティカル教員派遣受入を開始
- 短期派遣受入学生による Asia Dental Leader's League を形成
- アジア歯学ジョイントディグリープログラム設置の可能性について検討
- 内部評価、外部評価を行う

【2025 年度】

- 学部学生12名を中韓泰尼に短期派遣、同時に中韓泰尼から12名の学部学生受入
- 中韓泰尼の連携校からダブルディグリープログラムの大学院生受入
- 東北大学からの連携校にダブルディグリープログラムの大学院生派遣
- アジア歯学ジョイントディグリープログラム設置の協議
- 既卒生および在学生による歯学・歯科医療国際ネットワークを形成
- 日中韓泰尼によるアジア型デンティストリーコンソーシアムを完成
- 歯学教育・研究・臨床・行政・歯科産業でのアジアスタンダードの構築協議を開始
- アジア歯学ジョイントディグリープログラムの設置に向けて検討開始
- キャンパス・アジアプラスデンタルシンポジウムの開催
- 事業の総括、外部評価、成果発表

② 交流プログラムの質の向上のための評価体制

【実績・準備状況】

歯学研究科では海外連携校との共同教育プログラム、短期派遣・受入プログラムは全て歯学イノベーションリエンセンター国際連携推進部門で統括し、教務係、学部教務委員会、大学院教務委員会、研究科委員会、教授会など関連部署・委員会との連携のもと運営してきた。本事業は本学支援のもと、歯学研究科専任ならびに連携講座・寄附講座を含めた兼任教員、非常勤教員および事務系職員の連携による実施体制を基本とし、歯学イノベーションリエンセンターにて統括する。

【計画内容】

本事業では、運営委員会および実施委員会を設置し、学生の活動成果（学会発表、論文発表、授業成績）・プログラムの満足度・自己評価、教員による評価、プログラム志願者数、国際共同研究件数、国際共同シンポジウムの開催などを通じ、年度ごとに総合的にプログラムに対する短期自己評価を行う。学生評価は、研究科で既に構築している学修ポートフォリオ・システムを活用した活動成果（学修・研究の進行状況、学会発表、論文発表、自己評価等）、および授業成績に基づき行う。さらに修了時には、国際的な外部評価者を含めた審査・評価を実施する。また、本プログラムの成果は、2年毎に開催予定のキャンパス・アジアプラスデンタルシンポジウムにて発表、および国際学会、国際雑誌への論文発表を通じ、社会発信を行うとともに、2年に一度、内部評価、有識者・海外連携機関による外部評価を実施する。これらの評価を有効にフィードバックし、改善・改良を通し、より効果的なプログラム運営を推進する。

③ 補助期間終了後の事業展開

本事業を通じ、歯学・歯科医療領域におけるアジア型デンティストリーコンソーシアムを形成し、アジア型デンティストリーをアジア地域に発信することにより、優秀な留学生の継続的確保を可能とする。さらに、本事業採択期間において、ダブルディグリープログラムのカリキュラムの基本運営手順がシステム化されることにより、事業終了後の運営はルーチン化される。ここで必要に応じ、部局経費を充当することで、プログラムの継続実施を可能とする。さらに、本事業で中韓泰尼の大学との短期および中長期留学生派遣・受入実績を積むことにより、将来的に日中韓泰尼歯学ジョイント・ディグリーの共同教育コースへの展開を図り、留学生教育の自立化、私費外国人留学生の継続的な獲得を図る。

本事業の修了者、参加者により歯学・歯科医療のAsia Dental Leader's Leagueを構築し、アジア型デンティストリーをアジア全域に拡大・展開し、アジア全域からの優秀な留学生確保を可能とする。

本事業で国際知・融合知を具備した次代の歯学を展開しうる研究者、マルチモーダルな高度な専門的知識を備えた指導的グローバルリーダーの育成が促進されるとともに、我が国を拠点としたアジアスタンダード歯学・歯科医療の確立とアジアの歯科医療を牽引する歯科医師の育成が期待される。さらに、次代大学院歯学教育モデルを日中韓泰尼のみならず、アジア全域に提供することにより、本邦の大学院歯学教育の多元化をもたらし、幅広い学生のニーズへの対応が可能となり、アジアの本質的な歯学イノベーションをもたらし、歯学からの健康長寿へ貢献する。将来的には、本事業で養成するグローバル人材は、本事業で形成するアジア型デンティストリーコンソーシアムで中心的な役割を担い、東北大学がアジアのリーダーとしてさらに同プログラムを欧米へと展開し、協調しながら真の世界展開力を確立していく。さらに、本事業で培ったアジアコンソーシアム形成によるDDプログラムの設置・運営を土台として、本学未設置のJDプログラム設置を構想する。さらに、本事業をモデルケースとして、全学の国際共同教育に展開していくと共に、国際共修による国際競争力・展開力の強化を進めていく。

④ 補助期間終了後の事業展開に向けた資金計画

本事業期間中の取り組みにより、各種プログラムの運営がシステム化・ルーチン化され、必要に応じて、部局経費を充当することで、継続実施が可能である。

歯学研究科では海外短期受入・派遣プログラムにおいては、研究科長裁量経費で旅費の補助を行うとともに、留学生との交流会経費、結果報告会経費等を部局負担で実施している。また、2016年度には東北大学歯学教育充実経費など支援制度を設立し、プログラムの充実や、継続に努めている。歯学研究科では、優秀な成績を修めた学生の RA 採用、東北大学グローバル萩博士学生奨学金への推薦、さらに研究科独自の 国際発表支援制度「若手研究者育成プログラム」への採用等、種々の大学院学生支援制度を有する。

さらに、各種競争的外部資金の獲得に勤め、本事業終了後における、プログラム運営における物品費、人件費などに充てる。また、歯学研究科運営交付金、学内競争的資金、東北大学ダブル・ディグリー学生支援制度、博士課程大学院生経済支援制度などの有効利用により、事業終了後のフォローアップが可能とし、事業の継続的展開に取り組む。

補助期間における各経費の明細【年度ごとに1ページ】

補助金申請ができる経費は、当該事業の遂行に必要な経費であり、本プログラムの目的である大学の世界展開力強化のための使途に限定されます。（令和3年度大学の世界展開力強化事業公募要領参照。）

(単位：千円)

＜2021年度＞	経 費 区 分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	〔物品費〕	7,920	0	7,920	
	①設備備品費	2,920	0	2,920	
	・会議支援システム一式（東北大学に設置）	2,920		2,920	
	・			0	
	・			0	
	②消耗品費	5,000	0	5,000	
	・シンポジウム、リエゾン会議開催用消耗品一式	3,000		3,000	
	・共同教育研究指導に関わる消耗品一式	2,000		2,000	
	・			0	
	〔人件費・謝金〕	5,150	2,700	7,850	
	①人件費	4,300	2,700	7,000	
	・助教相当（1人×@5,500千円）（4ヶ月）		2,700	2,700	
	・教育支援者（2人×@3,500千円）（4ヶ月）	3,300		3,300	
	・事務補佐員（1人×@2,300千円）（4ヶ月）	1,000		1,000	
	②謝金	850	0	850	
	・講義謝金（5人×15時間×@6千円）	450		450	
	・招待講演講師謝金（4人×@100千円）	400		400	
	・			0	
	〔旅費〕	0	0	0	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	〔その他〕	2,730	6,430	9,160	
	①外注費	2,230	0	2,230	
	・事業専用ホームページ作製費	1,230		1,230	
	・ホームページ、デジタルパンフレット等の翻訳	1,000		1,000	
	・			0	
	②印刷製本費	500	0	500	
	・ポスター、報告書印刷費	500		500	
	・			0	
	・			0	
	③会議費	0	1,050	1,050	
	・リエゾン会議開催経費		800	800	
	・内部評価・運営会議費		250	250	
	・			0	
	④通信運搬費	0	1,000	1,000	
	・資料輸送費		500	500	
	・通信費		500	500	
	・			0	
	⑤光熱水料	0	1,500	1,500	
	・光熱費		1,500	1,500	
	・			0	
	・			0	
	⑥その他（諸経費）	0	2,880	2,880	
	・留学生受入経費（36人月×@80千円）		2,880	2,880	
	・			0	
	・			0	
2021年度	合計	15,800	9,130	24,930	

(大学名： 東北大学) (タイプ B①:CAプラス)

(前ページの続き)

(単位：千円)

＜2022年度＞	経 費 区 分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]	3,800	3,000	6,800	
	①設備備品費	0	0	0	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	②消耗品費	3,800	3,000	6,800	
	・シンポジウム、リエゾン会議開催用消耗品一式	3,800		3,800	
	・共同教育研究指導に関わる消耗品一式		3,000	3,000	
	・			0	
	[人件費・謝金]	10,000	12,050	22,050	
	①人件費	10,000	11,000	21,000	
	・助教相当 (1人× @8,000千円)		8,000	8,000	
	・教育支援者 (2人× @5,000千円)	10,000		10,000	
	・事務補佐員 (1人× @3,000千円)		3,000	3,000	
	②謝金	0	1,050	1,050	
	・講義謝金 (5人×15時間×@ 6千円)		450	450	
	・招待講演講師謝金 (4人×@100千円)		400	400	
	・外部評価者謝金 (4人×@50千円)		200	200	
	[旅費]	0	1,200	1,200	
	・研究者派遣旅費 (2人×@600千円) (3ヶ月)		1,200	1,200	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	[その他]	400	11,350	11,750	
	①外注費	0	300	300	
	・事業専用ホームページメンテナンス費		300	300	
	・			0	
	・			0	
	②印刷製本費	400	0	400	
	・国際シンポジウムプロシーディング製本費	400		400	
	・			0	
	・			0	
	③会議費	0	1,550	1,550	
	・リエゾン会議開催経費		800	800	
	・内部評価・運営会議費		250	250	
	・国際シンポジウム開催経費		500	500	
	④通信運搬費	0	1,300	1,300	
	・資料輸送費		700	700	
	・通信費		600	600	
	・			0	
	⑤光熱水料	0	2,000	2,000	
	・光熱費		2,000	2,000	
	・			0	
	・			0	
	⑥その他 (諸経費)	0	6,200	6,200	
	・学生派遣旅費補助 (12人×@150千円)		1,800	1,800	
	・留学生受入経費 (55人月×@80千円)		4,400	4,400	
	・			0	
2022年度	合計	14,200	27,600	41,800	

(大学名： 東北大学

) (タイプ B①:CAプラス)

(前ページの続き)

(単位：千円)

＜2023年度＞	経 費 区 分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]	2,700	2,900	5,600	
	①設備備品費	0	0	0	
				0	
				0	
				0	
	②消耗品費	2,700	2,900	5,600	
	・シンポジウム、リエゾン会議開催用消耗品一式		2,900	2,900	
	・共同教育研究指導に関わる消耗品一式	2,700		2,700	
				0	
	[人件費・謝金]	10,000	11,650	21,650	
	①人件費	10,000	11,000	21,000	
	・助教相当 (1人× @8,000千円)		8,000	8,000	
	・教育支援者 (2人× @5,000千円)	10,000		10,000	
	・事務補佐員 (1人× @3,000千円)		3,000	3,000	
	②謝金	0	650	650	
	・講義謝金 (5人×15時間×@ 6千円)		450	450	
	・招待講演講師謝金 (2人×@100千円)		200	200	
				0	
	[旅費]	0	6,800	6,800	
	・教員海外派遣・調査旅費 (3人×4回×@200千円)		2,400	2,400	
	・シンポジウム出席旅費 (4人×@200千円)		800	800	
	・招聘旅費 (3人×4回×@200千円)		2,400	2,400	
	・研究者派遣旅費 (2人×@600千円) (3ヶ月)		1,200	1,200	
				0	
				0	
				0	
	[その他]	0	10,850	10,850	
	①外注費	0	300	300	
	・事業専用ホームページメンテナンス費		300	300	
				0	
				0	
	②印刷製本費	0	0	0	
				0	
				0	
				0	
	③会議費	0	1,050	1,050	
	・リエゾン会議開催経費		800	800	
	・内部評価・運営会議費		250	250	
				0	
	④通信運搬費	0	1,300	1,300	
	・資料輸送費		700	700	
	・通信費		600	600	
				0	
	⑤光熱水料	0	2,000	2,000	
	・光熱費		2,000	2,000	
				0	
				0	
	⑥その他 (諸経費)	0	6,200	6,200	
	・学生派遣旅費補助 (12人×@150千円)		1,800	1,800	
	・留学生受入経費 (55人月×@80千円)		4,400	4,400	
				0	
2023年度	合計	12,700	32,200	44,900	

(大学名： 東北大学

) (タイプ B①:CAプラス)

(前ページの続き)

(単位：千円)

<2024年度> 経 費 区 分		補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
[物品費]		1,400	2,500	3,900	
①設備備品費		0	0	0	
・				0	
・				0	
・				0	
②消耗品費		1,400	2,500	3,900	
・シンポジウム、リエゾン会議開催用消耗品一式			2,500	2,500	
・共同教育研究指導に関わる消耗品一式		1,400		1,400	
・				0	
[人件費・謝金]		10,000	11,950	21,950	
①人件費		10,000	11,000	21,000	
・助教相当 (1人× @8,000千円)			8,000	8,000	
・教育支援者 (2人× @5,000千円)		10,000		10,000	
・事務補佐員 (1人× @3,000千円)			3,000	3,000	
②謝金		0	950	950	
・講義謝金 (5人×15時間×@ 6千円)			450	450	
・招待講演講師謝金 (3人×@100千円)			300	300	
・外部評価者謝金 (4人×@50千円)			200	200	
[旅費]		0	3,000	3,000	
・教員海外派遣・調査旅費 (3人×2回×@200千円)			1,200	1,200	
・シンポジウム出席旅費 (3人×@200千円)			600	600	
・招聘旅費 (3人×1回×@200千円)			600	600	
・研究者派遣旅費 (1人×@600千円) (3ヶ月)			600	600	
・				0	
・				0	
・				0	
[その他]		0	9,250	9,250	
①外注費		0	200	200	
・事業専用ホームページメンテナンス費			200	200	
・				0	
・				0	
②印刷製本費		0	400	400	
・国際シンポジウムプロシーディング製本費			400	400	
・				0	
・				0	
③会議費		0	750	750	
・リエゾン会議開催経費			300	300	
・内部評価・運営会議費			150	150	
・国際シンポジウム開催経費			300	300	
④通信運搬費		0	300	300	
・通信費			300	300	
・				0	
・				0	
⑤光熱水料		0	1,400	1,400	
・光熱費			1,400	1,400	
・				0	
・				0	
⑥その他 (諸経費)		0	6,200	6,200	
・学生派遣旅費補助 (12人×@150千円)			1,800	1,800	
・留学生受入経費 (55人月×@80千円)			4,400	4,400	
・				0	
2024年度	合計	11,400	26,700	38,100	

(前ページの続き)

(単位：千円)

＜2025年度＞	経 費 区 分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]	0	2,200	2,200	
	①設備備品費	0	0	0	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	②消耗品費	0	2,200	2,200	
	・シンポジウム、リエゾン会議開催用消耗品一式		1,000	1,000	
	・共同教育研究指導に関わる消耗品一式		1,200	1,200	
	・			0	
	[人件費・謝金]	10,000	11,580	21,580	
	①人件費	10,000	11,000	21,000	
	・助教相当 (1人× @8,000千円)		8,000	8,000	
	・教育支援者 (2人× @5,000千円)	10,000		10,000	
	・事務補佐員 (1人× @3,000千円)		3,000	3,000	
	②謝金	0	580	580	
	・講義謝金 (2人×15時間×@ 6千円)		180	180	
	・招待講演講師謝金 (2人×@100千円)		200	200	
	・外部評価者謝金 (4人×@50千円)		200	200	
	[旅費]	0	4,400	4,400	
	・教員海外派遣・調査旅費 (3人×2回×@200千円)		1,200	1,200	
	・シンポジウム出席旅費 (4人×@200千円)		800	800	
	・招聘旅費 (3人×2回×@200千円)		1,200	1,200	
	・研究者派遣旅費 (2人×@600千円) (3ヶ月)		1,200	1,200	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	[その他]	200	8,590	8,790	
	①外注費	200	0	200	
	・事業専用ホームページメンテナンス費	200		200	
	・			0	
	・			0	
	②印刷製本費	0	0	0	
	・			0	
	・			0	
	・			0	
	③会議費	0	1,050	1,050	
	・リエゾン会議開催経費		500	500	
	・内部評価・運営会議費		250	250	
	・国際シンポジウム開催経費		300	300	
	④通信運搬費	0	300	300	
	・通信費		300	300	
	・			0	
	・			0	
	⑤光熱水料	0	1,400	1,400	
	・光熱費		1,400	1,400	
	・			0	
	・			0	
	⑥その他 (諸経費)	0	5,840	5,840	
	・学生派遣旅費補助 (12人×@120千円)		1,440	1,440	
	・留学生受入経費 (55人月×@80千円)		4,400	4,400	
	・			0	
2025年度	合計	10,200	26,770	36,970	

(大学名： 東北大学

) (タイプ B①:CAプラス)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

①交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日) 北京大学		国名	中華人民共和国		
	(英) Peking University					
設置形態	国立	設置年	1898年			
設置者（学長等）	President: Professor Hao Ping□					
学部等の構成	Division of Sciences(School of Mathematical Sciences, School of Physics, College of Chemistry and Molecular Engineering, School of Life Sciences, College of Urban and Environmental Sciences, School of Earth and Space Sciences, School of Psychological and Cognitive Sciences, College of Architecture and Landscape Architecture) Division of Information & Engineering(School of Electronics Engineering and Computer Science, College of Engineering, Wangxuan Institue of Computer Technology, School of Software & Microelectronics, College of Environmental Sciences and Engineering, National Engineering Research Center for Software Engineering) Division of Humanities(Department of Chinese Language and Literature, Department of History, School of Archaeology and Museology ,Department of Philosophy, and of Religious Studies, School of Foreign Languages, School of Arts, School of Chinese as a Second Language, Academy of Opera) Division of Social Sciences(School of International Studies, Law School, Department of Information Management, Department of Sociology, School of Government, School of Marxism , Graduate School of Education, School of Journalism and Communication, Department of PE , School of New Media) Division of Economics & Management(School of Economics, Guanghua School of Management, Institute of Population Research, National School of Development) Health Science Center(School of Basic Medical Sciences, School of Pharmaceutical Sciences, School of Public Health, School of Nursing, School of Health Humanities, School of Continuing Medical Education)					
学生数	総数	46, 113人	学部生数	16, 372人	大学院生数	29, 741人
受け入れている留学生数	4, 369人	日本からの留学生数		182人		
海外への派遣学生数	466人	日本への派遣学生数		27人		
Webサイト（URL）	https://english.pku.edu.cn					

②記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

北京大学は、IAU（International Association of Universities）のWHED（World Higher Education Database）に次のとおり掲載されている。

The screenshot shows the Peking University profile on the IAU website. It includes the university's name in English and Chinese, its IAU ID (IAU-013417), and a dropdown menu for 'General Information'. The 'General Information' section is expanded, showing the address (5179uyuan Road, Haidian District, Beijing, 100871), website (http://www.pku.edu.cn), and other details like 'Other Sites', 'Institution Funding' (Public), 'History' (Founded 1898 as Imperial University of Peking), 'Academic Year' (September to July), 'Admission Requirements' (Graduation from high school and National College Entrance Examination), 'Tuition Fees' (International: 26,000-95,000 per annum), 'Language(s)' (Chinese/English), 'Accrediting Agency' (Ministry of Education), 'Religious Affiliation' (None), and 'Student Body' (co-ed).

THE World University Ranking 2021では23位、Asia University Ranking 2021では2位である。
 QS World University Ranking 2022では18位である。

（大学名： 東北大学

（タイプ B①:CA プラス ）

③申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名： 東北大学

(タイプ B①:CA プラス)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

①交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日) 四川大学		国名	中華人民共和国		
	(英) Sichuan University					
設置形態	国立	設置年	1896年			
設置者（学長等）	President: Professor. Li Yan Rong					
学部等の構成	College of Arts, College of History and Culture (Tourism), West China College of Medicine/West China Hospital, West China Second University Hospital, West China College of Stomatology, Sichuan University - Pittsburgh Institute, College of Water Resource and Hydropower, School of Aeronautics and Astronautics, College of Economics, College of Law, College of Chemical Engineering, College of Literature and Journalism, College of Light Industry & Textile & Food Engineering, College of Foreign Languages, College of Polymer Science & Engineering, West China School of Basic Medical Sciences and Forensic Medicine, College of Mathematics, College of Physics, College of Chemistry, West China College of Public Health, College of Life Science, West China College of Pharmacy, College of Electronics and Information Engineering, School of Public Administration, College of Materials Science & Engineering, College of Business, College of Mechanical Engineering, College of Marxism, College of Electrical Engineering, Institute of Physical Education, College of Computer Science, College of Software Engineering, College of Architecture and Environment, Institute for Disaster Management and Reconstruction, School of International Studies					
学生数	総数	65,000人	学部生数	37,000人	大学院生数	28,000人
受け入れている留学生数	1,085人（コロナ関係で大幅減少）	日本からの留学生数	12人（コロナの関係で大幅減少）			
海外への派遣学生数	178人（コロナの関係で大幅減少）	日本への派遣学生数	7人（コロナの関係で大幅減少）			
Webサイト（URL）	http://en.scu.edu.cn					

②記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

四川大学は、IAU（International Association of Universities）のWHED（World Higher Education Database）に次のとおり掲載されている。

IAU-015411 China

General Information

Address: Street: 24 Yihuan Road, South Section 1
City: Chengdu
Province: Sichuan
Post Code: 610065
WWW: <http://www.scu.edu.cn>

Other Sites: Also Huaxi and Jiang'an campuses; university hospital; 28 postdoctoral mobile stations

Institution Funding: Public

History: Founded 1896 as the Sichuan Sino-Western School under the rule of Qing Dynasty Emperor Guangxu. Following several mergers successively became National Sichuan University 1931, Sichuan Union University 1954 and Sichuan University 1958. Acquired present status through the merger with West China University of Medical Sciences 2000 (founded 1910 as West China Union University). Part of "985 Project" universities. Main administrative body: Ministry of Education

Admission Requirements: High School diploma, National College Entrance Examination (Gaokao)
Foreign students: for further information see <http://www.scu.edu.cn/article/newsinfo.asp?id=114>

Tuition Fees: International: 17,500-60,000 per annum (CNY)

Language(s): Chinese

Accrediting Agency: Ministry of Education

Religious Affiliation: None

Student Body: co-ed

THE World University Ranking 2021では601-800位、Asia University Ranking 2021では133位である。
QS World University Ranking 2022では451位である。

③申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

①交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日) ソウル大学校		国名	大韓民国		
	(英) Seoul National University					
設置形態	国立	設置年	1946年			
設置者（学長等）	President: Professor. OH Se-Jung					
学部等の構成	Undergraduate: College of Humanities, College of Social Sciences, College of Natural Sciences, College of Agriculture & Life Sciences, College of Business Administration, College of Education, College of Engineering, College of Fine Arts, College of Liberal Studies, College of Human Ecology, College of Medicine, College of Music, College of Nursing, College of Pharmacy, College of Veterinary Medicine Graduate: Humanities & Social Sciences, Natural Sciences, Engineering, Medicine, Art Professional Graduate Schools: Graduate School of Public Health, Graduate School of Public Administration, Graduate School of Environmental Studies, Graduate School of International Studies, School of Dentistry, Graduate School of Business, College of Medicine, School of Law, Graduate School of Convergence Science and Technology, Graduate School of International Agriculture Technology, Graduate School of Engineering Practice, Graduate School of Data Science					
学生数	総数	27,813人	学部生数	16,608人	大学院生数	11,205人
受け入れている留学生数	2,038人	日本からの留学生数		53人		
海外への派遣学生数	622人	日本への派遣学生数		51人		
Webサイト（URL）	https://en.snu.ac.kr					

②記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

ソウル大学校は、IAU（International Association of Universities）のWHED（World Higher Education Database）に次のとおり掲載されている。

Seoul National University (SNU)

IAU-015168 Korea (Republic of)

General Information

Address: Street: 1 Gwanak-ro, Gwanak-gu
City: Seoul
Post Code: 151-742
WWW: <http://www.suseoul.edu>

Other Sites: Also 61 Research Institutes of the Colleges. University Hospital

Institution Funding: Public

History: Founded 1946 in succession to former Keijo Imperial University. Reorganized 1975. A State Institution under the jurisdiction of the Ministry of Education.

Academic Year: March to February (March-June; September-February)

Admission Requirements: Graduation from high school or teachers' college, or equivalent qualification recognized by the Ministry of Education in Korea, and entrance examination

Language(s): Korean:English

Accrediting Agency: Korean Council for University Education (KCUE)

韓国大学教育協議会（KCUE: Korean Council for University Education）の大学評価院（KUAI: Korean University Accreditation Institute）による大学機関別評価認証制度により、2018. 1. 1～2022. 12. 31の5年間の認証が与えられている。

Universities	Category	Location	NationalCorporation	Accreditation Period
Seoul National University	NationalCorporation	Seoul	Principal School	2017-02-01～2022-01-31

THE World University Ranking 2021では60位、Asia University Ranking 2021では9位である。
QS World University Ranking 2022では36位である。

③申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

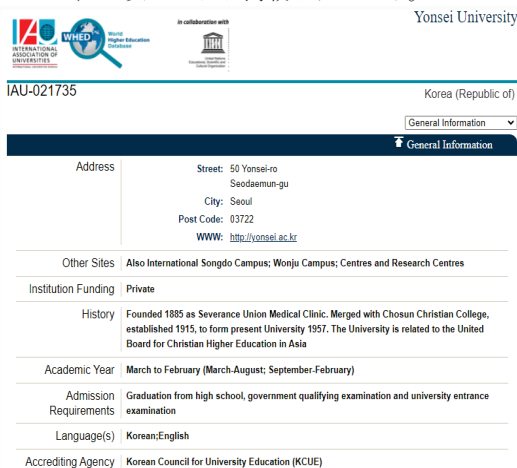
海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

①交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日) 延世大学校		国名	大韓民国		
	(英) Yonsei University					
設置形態	私立	設置年	1885年			
設置者（学長等）	President: Professor. Seoung Hwan Suh					
学部等の構成	College of Liberal Arts, College of Commerce and Economics, College of Business, College of Science, College of Engineering, College of Life Science and Biotechnology, College of Theology, College of Social Sciences, College of Law, College of Music, College of Human Ecology, College of Sciences in Education, College of Pharmacy, College of Medicine, College of Dentistry, College of Nursing, College of Pharmac Graduate School of Theology, Graduate School of Business, Graduate School of International Studies, Graduate School of Information, Graduate School of Communication & Arts, Graduate School of Social Welfare, Law School, Graduate School of Education, Graduate School of Public Administration, Graduate School of Engineering, Graduate School of Journalism and Mass Communication, Graduate School of Human Environmental Sciences, Graduate School of Economics, Graduate School of Nursing					
学生数	総数	38,901人	学部生数	26,112人	大学院生数	12,789人
受け入れている留学生数	2,983人	日本からの留学生数		5人		
海外への派遣学生数	10人	日本への派遣学生数		5人		
Webサイト（URL）	https://www.yonsei.ac.kr/en_sc/index.jsp					

②記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

延世大学校は、IAU（International Association of Universities）のWHED（World Higher Education Database）に次のとおり掲載されている。



IAU-021735	Korea (Republic of)
General Information	
General Information	
Address	Street: 50 Yonsei-ro Seodaeamun-gu City: Seoul Post Code: 03722 WWW: http://yonsei.ac.kr
Other Sites	Also International Songdo Campus; Wonju Campus; Centres and Research Centres
Institution Funding	Private
History	Founded 1885 as Severance Union Medical Clinic. Merged with Chosun Christian College, established 1915, to form present University 1957. The University is related to the United Board for Christian Higher Education in Asia
Academic Year	March to February (March-August; September-February)
Admission Requirements	Graduation from high school, government qualifying examination and university entrance examination
Language(s)	Korean; English
Accrediting Agency	Korean Council for University Education (KCUE)

韓国大学教育協議会（KCUE: Korean Council for University Education）の大学評価院（KUAI: Korean University Accreditation Institute）による大学機関別評価認証制度により、2018.1.1～2022.12.31の5年間の認証が与えられている。

Universities	Category	Location	NationalCorporation	Accreditation Period
YONSEI UNIVERSITY	Private	Seoul	Principal School	2018-01-01~2022-12-31

THE World University Ranking 2021では187位、Impact Ranking 2021では30位である。
QS World University Ranking 2022では79位である。

③申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

①交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日) チュラロンコーン大学		国名	タイ王国		
	(英) Chulalongkorn University					
設置形態	国立	設置年	1917年			
設置者（学長等）	Prresident: Professor. Bundhit Eua-arporn					
学部等の構成	Chula International School of Engineering, Chulalongkorn Business School, Faculty of Architecture, Faculty of Arts, Faculty of Communication Arts, Faculty of Economics, Faculty of Political Science, Faculty of Psychology, Faculty of Science, School of Integrated Innovation, College of Public Health Sciences (CPHS), Faculty of Allied Health Sciences, Faculty of Commerce and Accountancy, Faculty of Dentistry, Faculty of Education, Faculty of Engineering, Faculty of Law, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Faculty of Veterinary Science, School of Management, The Petroleum and Petrochemical College, Doctor of Philosophy (Ph.D.) in Petrochemical Technology, Faculty of Medicine, Faculty of Nursing, Sasin School of Management,					
学生数	総数	37,626人	学部生数	26,202人	大学院生数	10,656人
受け入れている留学生数	1,107人		日本からの留学生数	206人		
海外への派遣学生数	780人		日本への派遣学生数	199人		
Webサイト（URL）	https://www.chula.ac.th/en/					

②記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

チュラロンコーン大学は、IAU（International Association of Universities）のWHED（World Higher Education Database）に次のとおり掲載されている。

IAU-002805 Thailand

General Information

Address: Street: 254 Phayathai Road, Pathumwan, City: Bangkok, Post Code: 10330, WWW: <http://www.chula.ac.th>

Institution Funding: Public

History: Founded 1902 as Royal Pages' School, became Civil Service College 1911 and University 1917.

Academic Year: June to March (June-October; November-March); International Programme: August to May (August-December; January-May)

Admission Requirements: Undergraduate: Secondary school certificate (Mathayom 6/Grade 12) or recognized equivalent, and entrance examination. Graduate: Completion of a Bachelor/Master degree or the equivalent from an accredited university, English proficiency test, and one year of work experience for those who apply for curriculum B

Tuition Fees: National: National students: Undergraduate: Thai Students, 14,500-18,000 per semester. Foreign students: 59,000-62,500. Graduate Thai students: 19,000-26,000. Foreign: 76,000-91,500 (THB) (THB)

Language(s): English/Thai

Accrediting Agency: Higher Education Commission, Ministry of Education

Student Body: co-ed

THE World University Ranking 2021では601－800位、Impact Ranking 2021では23位、Asia University Ranking 2021では194位である。
QS World University Ranking 2022では215位である。

③申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

①交流プログラムを実施する相手大学の概要

大学名称	(日) インドネシア大学		国名	インドネシア共和国		
	(英) University of Indonesia					
設置形態	国立	設置年	1849年			
設置者（学長等）	Rector: Prof. Ari Kuncoro					
学部等の構成	Faculty of Administrative Science, Faculty of Computer Science, Faculty of Dentistry, Faculty of Economics and Business, Faculty of Engineering, Faculty of Humanities, Faculty of Law, Faculty of Mathematics and Natural Sciences, Faculty of Medicine, Faculty of Nursing, Faculty of Pharmacy, Faculty of Psychology, Faculty of Public Health, Faculty of Social and Political Sciences, School of Environmental Science, School of Strategic and Global Studies					
学生数	総数	47,357人	学部生数	33,516人	大学院生数	13,841人
受け入れている留学生数	1,074人	日本からの留学生数	163人			
海外への派遣学生数	1,410人	日本への派遣学生数	109人			
Webサイト（URL）	https://www.ui.ac.id/en/ □					

②記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

インドネシア大学は、IAU (International Association of Universities) のWHED (World Higher Education Database) に次のとおり掲載されている。

   In collaboration with  Indonesian University Universitas Indonesia	
IAU-018949	
Indonesia	
General Information	
General Information	
Address	Street: UI Depok Campus City: Jakarta Province: DKI Jakarta Post Code: 16424 WWW: https://www.ui.ac.id
Other Sites	Also Teaching Hospitals, Courses for foreign students, Study Abroad programme
Institution Funding	Public
History	Founded 1950, incorporating the Balai Perguruan Tinggi Republik Indonesia (Institution of Higher Learning of the Republic of Indonesia) and Universiteit van Indonesia. Faculties in Bandung, Surabaya and Makassar have since been incorporated in newly-established State universities.
Academic Year	August to July (August-January; February-July)
Admission Requirements	Secondary school certificate (Sekolah Lanjutan Atas, SLA) and entrance examination
Language(s)	Indonesian
Accrediting Agency	National Accreditation Agency for Higher Education (BAN-PT)
Student Body	co-ed

インドネシアの独立・非営利の組織である国家高等教育アクレディテーション機構（BAN-PT）による機関別認証（5年に1度受けることが法律で規定されている）において、インドネシア大学は2017年にA評価（最上位）と認定されている。



BBP-PT

[Home](#)
[Tentang Kami](#)
[Prosedur dan Instrumen](#)
[Data Akreditasi](#)
[Peraturan](#)
[Galeri](#)
[Publikasi](#)
[Survey](#)

Direktori Hasil Akreditasi Institusi

Show entries

universitas Indonesia	Semua	No. SK	Ta	Semua	Tanggal Ki	Semua
Collage Perguruan Tinggi	Rating Peringkat	No. SK	Year Tahun SK	Region Wilayah	Expiration Date Tanggal Kedaluwarsa	Expiration Status Status Kedaluwarsa
Universitas Indonesia	A	5239/SK/BAN-PT/Akred/PTXII/2017	2017	-	2022-12-27	Menth bereskal Still valid

THE World University Ranking 2021では801-1000位、Impact Ranking 2021では85位、Asia University Ranking 2021では194位である。
QS World University Ranking 2022では290位である。

③申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名： 東北大学

) (タイプ B①:CA プラス)

参考データ【国内の大学等 1 校につき、①～③は枠内に記入、④～⑥はそれぞれ指定ページ以内】
※人数等の算定に当たっては、原則として「学校基本調査」による定義に基づき記入。

大学等名

東北大学

①大学等全体における出身国別の留学生の受入総数（2019年 5 月 1 日現在）及び各出身国（地域）別の2019年度の留学生受入人数

※「留学生」とは、「出入国管理及び難民認定法」別表 1 に定める「留学」の在留資格を有する者に限る。

※「2019年度受入人数」は、2019年 4 月 1 日～2020年 3 月 31 日の出身国（地域）別受入人数を記入。

※「全学生数」には、日本人学生及び外国人留学生を含めた大学等全体の2019年 5 月 1 日現在の在籍者数を記入。

順位	出身国（地域）	受入総数	2019 年度 受入人数
1	中国	1,256	1,944
2	インドネシア	137	199
3	韓国	109	152
4	台湾	75	137
5	タイ	48	79
6	ベトナム	40	63
6	フランス	40	97
8	バングラデシュ	36	46
8	アメリカ合衆国	36	114
10	インド	29	64
その他 (上記 10 カ国以外)	(主な国名) ドイツ、マレーシア、イタリア、フィリピン、ブラジル	356	653
留学生の受入人数の合計		2,162	3,548
全学生数		18,387	
留学生比率		11.8%	

②2019年度中に留学した日本人学生数及び派遣先大学合計校数

※教育又は研究等を目的として、2019年度中（2019年 4 月 1 日から2020年 3 月 31 日まで）に海外の大学等（海外に所在する日本の大学等の分校は除く。）に留学した日本人学生について記入。

なお、2019年 3 月 31 日以前から継続して留学している者は含まない。

順位	派遣先大学の所在国 (地域)	派遣先大学名	2019年度 派遣人数
1	アメリカ合衆国	カリフォルニア大学等	396
2	ドイツ	ミュンヘン工科大学等	101
3	中国（マカオを含む）	大連理工大学等	96
4	英国	ヨーク大学等	94
5	フランス	国立応用科学院リヨン校等	89
6	カナダ	ウオータールー大学等	81
7	台湾	国立台湾大学等	79
8	オーストラリア	ニューサウスウェールズ大学等	77
9	韓国	ソウル大学校等	65
10	スペイン	マドリード・コンプルテンセ大学等	45
その他 (上記 10 カ国以外)	(主な国名) マレーシア	(主な大学名) マラヤ大学	424
	計 49 カ国	計 40 校	
派遣先大学合計校数			119
派遣人数の合計			1,547

大学等名	東北大学						
③大学等全体における外国人教員数（兼務者を含む）（2020年5月1日現在）							
※「全教員数」には大学等に在籍する日本人教員も含めた全教員数を記入。 ※「うち専任教員（本務者）数」には教授、准教授、講師、助教、助手の専任の外国人教員の数をそれぞれ記入。 （いずれにも当てはまらない場合には、「助手」に含めること。）							
全教員数	外国人教員数						外国人教員の比率
	教授	准教授	講師	助教	助手	合計	
3,863	20	62	59	162	7	310	8%
うち専任教員 （本務者）数	20	62	14	162	7	265	

大学等名

東北大学

④取組の実績 【4ページ以内】

英語による授業の実施や留学生との交流、海外の大学と連携して学位取得を目指す交流プログラムの開発等による国際的な教育環境の構築

【取組の実績】

グローバル30事業で創設した英語で学位取得可能な国際学位コース「Future Global Leadership (FGL) プログラム」により、コース数は平成25年度の24コース264人から令和2年度の51コース、602人と大幅に増加した。学士課程においては理・工・農の各学部による3つのコースを継続的に実施するとともに、大学院においては本学が世界的な研究拠点として強化する災害科学、未来型医療、データ科学、機械科学のほか、経済学、法学といった人文社会科学系のコースなども設置するなど大幅にコース数が増加している。特に博士後期課程では約9割の研究科が国際学位コースを提供している。また、国内学生と留学生がともに参加する「国際共修」型の授業科目（国際共修ゼミ）を開発・実施し、順調に科目数を増やしている。国際共修ゼミのクラス数は、平成25年度の11クラスから令和元年度は70クラスと6倍以上に増加と国内最大規模を誇り国際共修キャンパスの深化に大きく貢献している。国際学位コース（FGLプログラム）のコース数と参加者数の拡充、国際共修クラスの拡充などの取組を推進したことにより、英語による授業科目数・割合は、平成25年度の570科目/7.3%から令和2年度は1,122科目/13.2%と倍増した。

東北大学では国際共同学位に関する教育を国内大学では早期に実現してきた。文部科学省大学国際戦略本部強化事業（平成17～22年度）、戦略的国際連携支援事業（平成17～20年度）、先端的国際連携支援事業（平成19～22年）、大学教育の国際化加速プログラム（平成20年～22年）等に採択され大学院を中心にダブルディグリープログラム等の開発と導入を組織的に進めてきた。全学的イニシアティブにより推進するINSA de Lyon、エコールセントラルグループ、スウェーデン王立工科大学等とのダブルディグリープログラムのほか、文学・法学・経済・理学・医学・歯学・工学・農学・環境科学・生命科学・医工学といった各部局のイニシアティブによるダブルディグリープログラムも順次開設されている。以下に述べる国際共同大学院プログラムも含めると本学が海外の大学と連携して推進する国際共同教育プログラム数は39プログラムにのぼり、60を超える海外協定大学とJointly Supervised Degree (JSD)/Double Degree (DD)に関する覚書を締結し、強い連携のもとに共同教育を実践している。文科省が公表したガイドラインに基づき平成27年度には本学独自のガイドラインも作成し質の保証も担保している。

スーパーグローバル大学創成支援（平成26年度から）の採択を契機として本学では「国際共同大学院プログラム」群を創設・実施している。国際共同大学院プログラムは、海外有力大学との共同指導体制のもとで原則6か月以上の海外で共同研究、共同授業、サマースクール等の組み合わせによる組織的・有機的な国際共同教育（学位プログラム）を行っている。プログラム修了者には、プログラム名を付した学位記を授与している。令和元年度までに、スピントロニクス分野、データ科学分野、日本学分野をはじめとする9つのプログラムにおいて教育が実施されており、マインツ大学、バイロイト大学、国立清華大学、ケースウェスタンリザーブ大学、ハイデルベルク大学等の21の海外有力大学とJointly Supervised Degree (JSD)/Double Degree (DD)に関する覚書を締結した。覚書に基づき共同学位を取得した学生には、更にJSD/DDの学位が授与される。9プログラムの在籍者数は7人から令和2年度には235人に増加し、すでに修了生を29名輩出している。

【裏付資料、データ等】

1 外国語のみで卒業できるコースの数等の推移（JSPS公表：SGU中間評価、フォローアップ調査を元に作成）

	平成25年度 (H25.5.1)	平成26年度 (H26.5.1)	平成27年度 (H27.5.1)	平成28年度 (H28.5.1)	平成29年度 (H29.5.1)	平成30年度 (H30.5.1)	令和元年度 (R1.5.1)	令和2年度 (R2.5.1)
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
外国語のみで卒業できるコースの設置数(A)	24 コース	24 コース	26 コース	26 コース	26 コース	27 コース	51 コース	51 コース
うち学部(B)	3 コース	3 コース	3 コース	3 コース	3 コース	3 コース	3 コース	3 コース
うち大学院(C)	21 コース	21 コース	23 コース	23 コース	23 コース	24 コース	48 コース	48 コース
外国語のみで卒業できるコースの在籍者数(G)	264 人	308 人	359 人	476 人	537 人	535 人	589 人	602 人
うち学部(H)	39 人	55 人	71 人	79 人	89 人	92 人	109 人	108 人
うち大学院(I)	225 人	253 人	288 人	397 人	448 人	443 人	480 人	494 人

2 外国語による授業科目数・割合（JSPS公表：SGU中間評価、フォローアップ調査を元に作成）

	平成25年度 (通年)	平成26年度 (通年)	平成27年度 (通年)	平成28年度 (通年)	平成29年度 (通年)	平成30年度 (通年)	令和元年度 (通年)	令和2年度 (通年)
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
英語による授業科目数(D)	570 科目	794 科目	809 科目	896 科目	894 科目	1,034 科目	1,060 科目	1,122 科目
うち学部	181 科目	193 科目	193 科目	226 科目	257 科目	265 科目	278 科目	273 科目
うち大学院	389 科目	601 科目	616 科目	670 科目	637 科目	769 科目	782 科目	849 科目
全授業科目数(E)	7,847 科目	8,232 科目	8,404 科目	8,925 科目	8,342 科目	8,823 科目	8,481 科目	8,485 科目
うち学部	3,413 科目	3,685 科目	3,734 科目	3,898 科目	3,850 科目	3,873 科目	3,791 科目	3,684 科目
うち大学院	4,434 科目	4,547 科目	4,670 科目	5,027 科目	4,492 科目	4,950 科目	4,690 科目	4,801 科目
割 合(D/E)	7.3 %	9.6 %	9.6 %	10.0 %	10.7 %	11.7 %	12.5 %	13.2 %

3 JSPS公表：SGU中間評価（令和2年度実施）、SGUフォローアップ調査、SGU取組概要

https://www.jsps.go.jp/j-sgu/h26_kekka_saitaku.html
https://www.jsps.go.jp/j-sgu/data/follow-up/r2/sgu_r2fu_kekka.pdf
https://www.jsps.go.jp/j-sgu/data/torikumigaiyou/h26-r1/sgu_h26-r1initiatives_a02.pdf

4 東北大学国際共同大学院プログラム、高等大学院機構

http://ijg.pgd.tohoku.ac.jp/publication/data/ijgp_brochure_2019.pdf
<https://pgd.tohoku.ac.jp/about/>

外国人教員や国際的な教育研究の実績を有する日本人教員の採用や、FD等による国際化への対応のための教員の資質向上（国際公募、年俸制、テニュアトラック制等の実施・導入を含む。）

【取組の実績】

本学における「外国籍教員」及び「外国の大学で学位を取得した日本人教員」「外国で1年以上の教育研究歴のある日本人教員」の数・割合（以下、外国人教員等の数・割合）は、平成25年度の785人/25.2%から令和2年度は1,115人/34.7%へ上昇した。これらを増加させるため、1）「外国人教員等雇用促進経費（平成27年度より・1.1億円/年平均）」「クロスアポイントメント活用促進支援制度、クロスアポイントメント活用支援室設置（令和元年度より・2億円/年）」「若手女性・若手外国人特別教員制度（令和元年度・2億円/年）」「東北インターナショナルスクールに在籍する外国籍教員の子の教育への経済的支援（平成27年度より・5人程度/年）を独自財源（総長裁量経費）により実施するなどの財源支援のほか、2）学際科学フロンティア研究所では、国際公募により平成26年度～令和2年度までに若手研究者を77人雇用し、平成30年度からは「東北大学版テニュアトラック制度」を創設、安定的に雇用できる体制も整備している。国際交流サポート室や高等研究機構国際事業推進室（IAC）、国際広報センターでは、外国人研究者向けのビザ取得やウェブでの生活情報発信、本学研究紹介・国際公募情報提供、宿舍手配、日用品の購買支援、日本語講座、渡日時オリエンテーション等を実施している。

教員の外国語での教育力向上のため、各授業科目を英語で行う教員向けセミナーを大学教育支援センターで定期的に開催し、平成29年度は「Classroom management techniques for classes conducted in English」を開催した。また、世界標準の授業を実施するために本学ではこれまで「英語での授業提供」や「アクティブラーニング」に関するFDを数多く実施し、それらの動画や資料を全て閲覧できる「TiE: Teaching in English」ページを大学教育支援センターホームページ内に開設した。

本学では教員採用にあたり国際公募を積極的に推進している。平成29年度に最先端研究に取り組むためミッション別に三階層化した「研究イノベーションシステム」の世界トップレベル研究拠点である第一階層「高等研究機構」では国際公募等により若手研究者を世界各地から集め令和元年度時点で113人の若手研究者が在籍している。このうち「材料科学高等研究所（AIMR）」では研究者の約50%が外国人で世界中から外国人教員を惹きつける研究拠点を形成している。年俸制適用者（教員）数・割合については、既存制度のほか本学独自の年俸制など複数活用しながら、平成25年度815人/26.2%が令和2年度は1,192人/37.1%まで上昇している。テニュアトラック制度の導入についても、学際科学フロンティア研究所をはじめとして全学的に導入しておりその対象者数・割合は、平成25年度の9人/2.2%が令和2年度は69人/16.6%まで上昇している。

【裏付資料、データ等】

1 教員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教員の数・割合（JSPS公表：SGU中間評価、フォローアップ調査を元に作成）

	平成25年度 (H25.5.1)	平成26年度 (H26.5.1)	平成27年度 (H27.5.1)	平成28年度 (H27.5.2)	平成29年度 (H29.5.1)	平成30年度 (H30.5.1)	令和元年度 (R1.5.1)	令和2年度 (R2.5.1)
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
外国人教員等(A)	785 人	862 人	888 人	921 人	916 人	901 人	1,034 人	1,115 人
うち外国籍教員	171 人	185 人	193 人	219 人	202 人	201 人	209 人	265 人
うち外国の大学で学位を取得した日本人教員	108 人	113 人	112 人	110 人	109 人	102 人	114 人	115 人
うち外国で通算1年以上3年未満の教育研究歴のある日本人教員	391 人	415 人	432 人	444 人	459 人	450 人	537 人	544 人
うち外国で通算3年以上の教育研究歴のある日本人教員	115 人	149 人	151 人	148 人	146 人	148 人	174 人	191 人
全専任教員数(B)	3,111 人	3,169 人	3,178 人	3,187 人	3,150 人	3,146 人	3,121 人	3,213 人
割合(A/B)	25.2 %	27.2 %	27.9 %	28.9 %	29.1 %	28.6 %	33.1 %	34.7 %

2 「TiE: Teaching in English」ページ

<http://www.ihe.tohoku.ac.jp/CPD/archives/8943/2020/>

3 年俸制の導入：年俸制適用者数等（JSPS公表：SGU中間評価、フォローアップ調査を元に作成）

	平成25年度 (H25.5.1)	平成26年度 (H26.5.1)	平成27年度 (H27.5.1)	平成28年度 (H28.5.1)	平成29年度 (H29.5.1)	平成30年度 (H30.5.1)	令和元年度 (R1.5.1)	令和2年度 (R2.5.1)
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
年俸制適用者(教員)数(A)	815 人	876 人	930 人	1,010 人	980 人	992 人	982 人	1,192 人
全専任教員数(B)	3,111 人	3,169 人	3,178 人	3,187 人	3,150 人	3,146 人	3,121 人	3,213 人
割合(A/B)	26.2 %	27.6 %	29.3 %	31.7 %	31.1 %	31.5 %	31.5 %	37.1 %

4 テニユアトラック性の導入：テニユアトラック対象者数等（JSPS公表：SGU中間評価、フォローアップ調査を元に作成）

	平成25年度 (通年)	平成26年度 (通年)	平成27年度 (通年)	平成28年度 (通年)	平成29年度 (通年)	平成30年度 (通年)	令和元年度 (通年)	令和2年度 (通年)
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
テニユアトラック対象者数(A)	9 人	8 人	7 人	26 人	25 人	62 人	68 人	69 人
年間専任教員採用者数(B)	413 人	363 人	409 人	401 人	350 人	357 人	439 人	416 人
割合(A/B)	2.2 %	2.2 %	1.7 %	6.5 %	7.1 %	17.4 %	15.5 %	16.6 %

英語のできる国際担当職員の配置、語学等に関する職員の研修プログラム等、事務体制の国際化

【取組の実績】

採用試験での語学力評価を通じた外国語能力のある事務職員の積極的採用や語学力向上のための英会話学校への業務委託による語学研修、TOEIC対策のためのeラーニング教材、海外大学への短期研修プログラムなどを積極的に進めたことにより、TOEIC700 点以上の事務職員等の人数・割合は、平成25年度44人/3.1%が令和3年度には197人/14.2%へ上昇しており、語学力が必要とされる幅広い部署に配置可能となるなど、高いレベルで国際対応可能な職員の採用・活用・育成が図られた。また、教員の事務業務の負担が軽減されるなど留学生と外国人研究者の支援体制構築も進んでいる。

文部科学省、日本学術振興会が実施する国際業務研修等のほか、本学独自に沖縄科学技術大学院大学（OIST）との連携により1年間の長期職員派遣研修も実施している。また、海外での勤務経験を有する英語運用能力の高いURA及び外国籍URAを雇用している。これら取組の推進により、本学における「外国籍職員」「外国の大学で学位を取得した日本人職員」「外国で1年以上の職務のある日本人職員」の数・割合は、平成25年度の22人/1.6%から令和2年度は63人/4.5%まで上昇している。

【裏付資料、データ等】

1 外国語力基準（TOEIC700以上）を満たす専任職員数等（JSPS公表：SGU中間評価、フォローアップ調査を元に作成）

	平成25年度 (H25.5.1)	平成26年度 (H26.5.1)	平成27年度 (H27.5.1)	平成28年度 (H28.5.1)	平成29年度 (H29.5.1)	平成30年度 (H30.5.1)	令和元年度 (R1.5.1)	令和2年度 (R2.5.1)
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
外国語力基準を満たす専任職員数(A)	44 人	69 人	79 人	98 人	103 人	147 人	168 人	184 人
全専任職員数(B)	1,414 人	1,481 人	1,474 人	1,466 人	1,451 人	1,431 人	1,413 人	1,404 人
割合(A/B)	3.1 %	4.7 %	5.4 %	6.7 %	7.1 %	10.3 %	11.9 %	13.1 %

2 職員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任職員の数・割合（JSPS公表：SGU中間評価、フォローアップ調査を元に作成）

	平成25年度 (H25.5.1)	平成26年度 (H26.5.1)	平成27年度 (H27.5.1)	平成27年度 (H27.5.2)	平成29年度 (H29.5.1)	平成30年度 (H30.5.1)	令和元年度 (R1.5.1)	令和2年度 (R2.5.1)
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
外国人職員等(A)	22 人	33 人	44 人	47 人	54 人	49 人	48 人	63 人
うち外国籍職員	0 人	2 人	5 人	5 人	5 人	7 人	7 人	7 人
うち外国の大学で学位を取得した日本人職員	12 人	13 人	15 人	16 人	15 人	15 人	14 人	13 人
うち外国で通算1年以上の職務・研修経験のある日本人職員	10 人	18 人	24 人	26 人	34 人	27 人	27 人	43 人
全専任職員数(B)	1,414 人	1,481 人	1,474 人	1,466 人	1,451 人	1,431 人	1,413 人	1,404 人
割合(A/B)	1.6 %	2.2 %	3.0 %	3.2 %	3.7 %	3.4 %	3.4 %	4.5 %

厳格な成績管理、学生が履修可能な上限単位数の設定、明確なシラバスの活用等による学修課程と出口管理の厳格化等、単位の実質化。

【取組の実績】

平成 25 年度に学務審議会において本学におけるGPA制度導入について検討を始め、平成26 年11月に「東北大学学士課程におけるGPA 制度に関する申し合わせ」を制定し、平成28 年度学士入学者よりGPA 導入を適用した。本学のGPA 制度導入の目的は、学生の学習意欲を高め、適切な修学指導に資するとともに、厳格な成績評価を推進し、学びの質を向上させることを主としている。本学におけるGPA は成績評価のAA からD の5段階に対応して、4.0 から0.0 のGP をし、当該学期中の学期GPA や入学以降の累積GPA を履修上限単位数設定や修学指導等に活用してきた。本事業において推進している、「東北大学グローバルリーダー育成プログラム（TGL プログラム）」では、最終的な学修の成果として授与する「グローバルリーダー認定」にあたり、修了のための成績要件においてGPA を活用している。

本学のシラバス基準において、「授業時間外学修」として予習・復習・課題について具体的内容を指示し、自主的付与な学修を促している。平成 29 年度よりクォーター制を導入することを決定・実施し、実質的な授業内外学修時間と単位の実質化を確保する環境を整備した。

【裏付資料、データ等】

1 東北大学におけるGPA制度に関する申し合わせ

https://www.tohoku.ac.jp/japanese/studentinfo/education/01/education0110/015_2.pdf

2 東北大学シラバス

<https://qsl.cds.tohoku.ac.jp/qsl/>

大学等名	東北大学
------	------

⑤事業の評価 【1事業ごとに1ページ以内】

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果

大 学 名	東北大学
整理番号	A02
構 想 名	東北大学グローバルイニシアティブ構想

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価（公表用）

（総括評価） S	優れた取組状況であり、事業目的の達成が見込まれる。
（コメント） 本構想は、「世界から尊敬される三十傑大学」を目標に掲げ、東北大学を中核とする「知の国際共同体」の形成や、卓越した教育研究を行うワールドクラスの大学への飛躍を目指すものである。事業採択後、スピントロニクスなど、東北大学の強みを生かした国際共同研究プログラムにより、世界トップレベルの研究拠点として、留学生の受け入れ及び海外留学が増加している。多くの研究実績を持ち、それらを基礎に「教育・研究改革」、「国際化」を進展させようと努力した結果であり、世界最高レベルの教育体制として、高く評価できる。 大学院には、国内学生向けの国際共同大学院プログラムを、留学生向けの大学院国際学位コースを設置し、国際共修の展開を開始した。その結果、国際共同大学院プログラムでの海外留学派遣数が30倍に拡大、留学生向けの大学院国際コース数の約2倍への増加、授業科目数の約2倍への増加となり、国際共修の展開が大学院で成功している。学部学生向けには、国内学生向けの東北大学グローバルリーダー育成プログラム（TGLプログラム）により、平成25年度の642名から、令和元年度の3,304名へと約5倍の参加者数に増加、留学生向けの国際学士コースにおける外国語による授業科目数も増加された。 また、国際混住型の学生寄宿舎を建設し、その宿舎での国際共修環境の構築が学生のグローバル意識向上に繋がっている。加えて、全専任教員に占める外国籍教員数が増員され、また、20の海外有力大学とのJointly Supervised Degree(JSD)等に関する覚書を締結した。事業開始後、大学間協定に基づく派遣学生数は約2.8倍に、通年での外国人留学生数は約1.7倍に増加している。 スピントロニクスに加えて、材料科学、環境・地球科学、宇宙創成物理学、生命科学、災害科学・安全学、データ科学、機械科学技術、日本学の9つのプログラムを、国際共同大学院プログラムとして、本事業開始後の4年半で設置している。世界のオンリーワンの大学として、国際的に高く評価される研究分野について、当初計画のプログラムを上回って成功している。構想実現のための体制が優れていたものとして、高く評価できる。 財政支援期間終了後を見据えた自走化については、学内予算の内在化及び外部資金の獲得や産学連携等により、内部・外部の資金を見据えた方策が考えられていることが評価でき、今後はその取組の成果を更に発展させることが望まれる。	

大学等名	東北大学
⑤事業の評価 【1事業ごとに1ページ以内】	
「課題解決型高度医療人材養成プログラム」(医療チームによる災害支援領域) の取組概要及び中間評価結果	
整理番号	1
申請担当大学名	東北大学
(連携大学名)	(福島県立医科大学)
領域	医療チームによる災害支援領域
事業名	コンダクター型災害保健医療人材の養成
事業推進責任者	東北大学病院 総合地域医療教育支援部 教授・石井 正
取組概要	
本事業は、東北大学(医・歯・災害研)及び福島県立医科大学(医)が共同で実施する。自然災害、CBRNE災害、それらを合わせた複合災害に対応でき、様々な職種とチームとして協働でき、他組織と連携し、急性期から慢性期にかけて現場でも後方でも機能する「コンダクター型災害保健医療マネジメント人材」を養成する。医師、行政担当者含む災害医療関連他職種を対象とし、ICTにて広域で双方向の議論が可能な環境を担保しつつ、東日本大震災時に実働した両大学及び連携組織の長期間の災害対応経験、原子力災害対応経験、後方支援経験を基に教育コンテンツを構成し、これらの組織のコアメンバーを主な教育スタッフとして、総合的スキルを修得するための「災害マネジメントコース」を設置する。同コースを基盤研修とし、これに社会医学系専門医資格取得や学位取得可能なカリキュラムを付加したキャリア形成や研究推進可能な学習コースも併せて設置する。	
中間評価結果	
(総合評価) A	
順調に進捗しており、現行の努力を継続することによって当初目的を達成することが可能と判断される。	
(コメント) ○:優れた点等 ●:改善を要する点等	
○災害マネジメントコースには、多職種の多くの受講生があり、受講生の多くが修了後に災害医療ロジスティクススタッフに登録見込など、災害支援に寄与することが期待される。 ○DPAT(災害派遣精神医療チーム)を含めた各種災害医療セミナー・実習に取り組んでいる。 ●実習科目で一部受講達成度の悪いものがあるため、実習の意義を踏まえ、100%の達成を目指してほしい。 ●保健師や介護分野人材など他職種の受け入れ拡大に向け、公衆衛生的、中・長期的な災害支援の観点での専門家や教育カリキュラムを用意した方が良いのではないかと。 ●災害マネジメントコースでは、多職種が参加しているため、各職種に対応したキャリアパスを検討してほしい。 ●今後はウェビナー等により展開を広げていくべきで、特に宮城、福島だけでなく、岩手、茨城、千葉など東日本大震災で被害があった県などでも行うのはどうか。また、公的機関の他、事業実施大学以外の大学への事業の普及・促進に向けた一層の努力を期待する。 ●多彩で大きな事業であるため、もう少し外部の委員を増やして評価を客観的に行うべき。	

大学等名

東北大学

⑥他の公的資金との重複状況 【2ページ以内】

【国際化拠点整備事業費補助金】

・スーパーグローバル大学創成支援事業「東北大学グローバルイニシアティブ構想」
教育・研究・ガバナンス面での徹底した国際化を進めることにより、グローバル時代を牽引する卓越した教育・研究を行う大学へと飛躍し、世界がその実力や実績を認め、敬意を持って評される大学となることを目指す。そのため、本事業経費は、①教育、研究、キャンパス、運営システムの国際化、②研究力強化と両輪をなす教育改革、③総長主導によるガバナンス改革を実行するための経費として主に活用している。

【研究大学強化促進費補助金】

・研究大学強化促進事業
本学の国内における研究論文数や競争的資金獲得から見る地位は高く、実績は向上しているが、世界における相対的なプレゼンスは国内の他大学と同様に低下の傾向にある。本学と世界トップレベル研究者とのネットワークを戦略的に張り巡らせ、強固に発展させる必要がある。学内研究特区「高等研究機構」の設置や東北大学知のフォーラム事業、大学全体の研究力強化及び研究環境改革経費として活用している。

【研究拠点形成費等補助金】

・卓越大学院プログラム
これまでの大学院改革の成果を生かし、国内外の大学・研究機関・民間企業等と組織的な連携を行いつつ、世界最高水準の教育力・研究力を結集した5年一貫の博士課程学位プログラムを構築することを目的とする。そのため、民間企業等との共同研究の創出、共同研究を創出するための人材育成・交流、卓越した人材育成拠点を形成するための経費として活用している。

・がんプロフェッショナル養成プラン「東北次世代がんプロ養成プラン」
最新のがん医療に必要な学識・技能や国際レベルの臨床研究を推進する能力を育み、大学、行政、職能団体、がん拠点病院や診療所、患者会や学会が連携しがんゲノム医療・個別化医療、希少がん・難治がん、小児から高齢者のライフステージ毎の多様ながんの医療ニーズに応えるがん専門医療人を養成するための経費として活用している。

・持続的な産学共同人材育成システム構築事業「創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム（運営拠点・中核拠点）」
産学連携による実践的かつ広く深い学びを追求し、学生も社会人も学び続けチャレンジし続ける社会の実現、未来を拓く人材の各界への輩出のため、大学において学びと社会を繋ぐ上で中心的役割を担う実務家教員を育成するための経費として活用している。

【大学改革推進等補助金】

・課題解決型高度医療人材養成プログラム「コンダクター型災害保健医療人材の養成」
自然災害、CBRNE 災害、それらを合わせた複合災害に対応でき、様々な職種とチームとして協働でき、他組織と連携し、急性期から慢性期にかけて現場でも後方でも機能する「コンダクター型災害保健医療マネジメント人材」を養成するための経費として活用している。

【日本学生支援機構令和3年度海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）】

令和3年度海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）において本学は27プログラムが採択されているが今回申請事業と特に関連するのは以下のとおり。いずれも海外協定校との強い連携のもと、交換留学もしくはダブルディグリー等の学位取得を目的として、短期～中長期にわたり大学院生を海外協定校から受入れ又は海外協定校へ派遣するための留学支援に活用される。なお、本プログラムは北米、欧州、東南アジア、オセアニアをはじめとする連携に重点を置いたプログラムであり、今回申請する東アジア、特に日中韓との連携に重点を置いた事業とは異なる。

(協定受入)

- ・マルチモーダル歯科医療グローバル人材早期育成プログラム
- ・東北大学自然科学系短期共同研究留学生受入プログラム (COLABS)
- ・東北大学短期国際共同教育・研究留学生受入プログラム

(協定派遣)

- ・マルチモーダル歯科医療グローバル人材早期育成プログラム
- ・国際共同大学院推進型短期共同研究留学生派遣プログラム
- ・最先端の創造と大変革時代の社会を世界的視野で先導するリーダー育成プログラム

(大学名： 東北大学 (タイプ B①:CAプラス)